



## config コマンド : 802.11

---

- [config 802.11-abgn \(4 ページ\)](#)
- [config 802.11a 11acsupport \(5 ページ\)](#)
- [config 802.11-a antenna extAntGain \(6 ページ\)](#)
- [config 802.11-a channel ap \(7 ページ\)](#)
- [config 802.11-a txpower ap \(8 ページ\)](#)
- [config 802.11 antenna diversity \(9 ページ\)](#)
- [config 802.11 antenna extAntGain \(10 ページ\)](#)
- [config 802.11 antenna mode \(11 ページ\)](#)
- [config 802.11 antenna selection \(12 ページ\)](#)
- [config 802.11b 11gSupport \(13 ページ\)](#)
- [config 802.11b preamble \(14 ページ\)](#)
- [config 802.11h channelswitch \(15 ページ\)](#)
- [config 802.11h powerconstraint \(16 ページ\)](#)
- [config 802.11h setchannel \(17 ページ\)](#)
- [config 802.11 11nsupport \(18 ページ\)](#)
- [config 802.11 11nsupport a-mpdu tx priority \(19 ページ\)](#)
- [config 802.11 11nsupport a-mpdu tx scheduler \(21 ページ\)](#)
- [config 802.11 11nsupport antenna \(22 ページ\)](#)
- [config 802.11 11nsupport guard-interval \(23 ページ\)](#)
- [config 802.11 11nsupport mcs tx \(24 ページ\)](#)
- [config 802.11 11nsupport rifs \(26 ページ\)](#)
- [config 802.11 antenna diversity \(27 ページ\)](#)
- [config 802.11 antenna extAntGain \(28 ページ\)](#)
- [config 802.11 antenna mode \(29 ページ\)](#)
- [config 802.11 antenna selection \(30 ページ\)](#)
- [config 802.11 channel \(31 ページ\)](#)
- [config 802.11 channel ap \(33 ページ\)](#)
- [config 802.11 chan\\_width \(34 ページ\)](#)
- [config 802.11 rx-sop threshold \(36 ページ\)](#)

- config 802.11 txPower (38 ページ)
- config 802.11 beamforming (40 ページ)
- config 802.11h channelswitch (42 ページ)
- config 802.11h powerconstraint (43 ページ)
- config 802.11h setchannel (44 ページ)
- config 802.11h smart dfs (45 ページ)
- config 802.11 11nsupport (46 ページ)
- config 802.11 11nsupport a-mpdu tx priority (47 ページ)
- config 802.11 11nsupport a-mpdu tx scheduler (49 ページ)
- config 802.11 11nsupport antenna (50 ページ)
- config 802.11 11nsupport guard-interval (51 ページ)
- config 802.11 11nsupport mcs tx (52 ページ)
- config 802.11 11nsupport rifs (54 ページ)
- config 802.11 beacon period (55 ページ)
- config 802.11 cac defaults (56 ページ)
- config 802.11 cac video acm (58 ページ)
- config 802.11 cac video cac-method (60 ページ)
- config 802.11 cac video load-based (62 ページ)
- config 802.11 cac video max-bandwidth (64 ページ)
- config 802.11 cac media-stream (66 ページ)
- config 802.11 cac multimedia (68 ページ)
- config 802.11 cac video roam-bandwidth (70 ページ)
- config 802.11 cac video sip (72 ページ)
- config 802.11 cac video tspec-inactivity-timeout (74 ページ)
- config 802.11 cac voice acm (76 ページ)
- config 802.11 cac voice max-bandwidth (78 ページ)
- config 802.11 cac voice roam-bandwidth (80 ページ)
- config 802.11 cac voice tspec-inactivity-timeout (82 ページ)
- config 802.11 cac voice load-based (84 ページ)
- config 802.11 cac voice max-calls (86 ページ)
- config 802.11 cac voice sip bandwidth (88 ページ)
- config 802.11 cac voice sip codec (90 ページ)
- config 802.11 cac voice stream-size (92 ページ)
- config 802.11 cleanair (94 ページ)
- config 802.11 cleanair device (97 ページ)
- config 802.11 cleanair alarm (99 ページ)
- config 802.11 disable (101 ページ)
- config 802.11 dtpc (102 ページ)
- config 802.11 enable (103 ページ)
- config 802.11 exp-bwreq (105 ページ)
- config 802.11 fragmentation (106 ページ)

- [config 802.11 l2roam rf-params](#) (107 ページ)
- [config 802.11 max-clients](#) (110 ページ)
- [config 802.11 media-stream multicast-direct](#) (111 ページ)
- [config 802.11 media-stream video-redirect](#) (113 ページ)
- [config 802.11 multicast data-rate](#) (114 ページ)
- [config 802.11 rate](#) (115 ページ)
- [config 802.11 rssi-check](#) (117 ページ)
- [config 802.11 rssi-threshold](#) (118 ページ)
- [config 802.11 SI](#) (119 ページ)
- [config 802.11 tsm](#) (120 ページ)
- [config 802.11b preamble](#) (121 ページ)

## config 802.11-abgn

アクセス ポイントのデュアルバンド無線パラメータを設定するには、**config 802.11-abgn** コマンドを使用します。

```
config 802.11-abgn {cleanair {enable | disable} {cisco_ap band band} | {enable | disable} {cisco_ap}}
```

構文の説明		
	<b>cleanair</b>	デュアルバンド無線に CleanAir を設定します。
	<b>enable</b>	2.4 GHz と 5 GHz の両方の無線で CleanAir を有効にします。
	<b>disable</b>	2.4 GHz と 5 GHz の両方の無線で CleanAir を無効にします。
	<i>cisco_ap</i>	このコマンドを適用するアクセス ポイントの名前。
	<b>band</b>	無線帯域を設定します。
	<i>band</i>	2.4 GHz または 5 GHz となる無線帯域。
	<b>enable</b>	アクセス ポイントのデュアルバンド無線を有効にします。
	<b>disable</b>	アクセス ポイントのデュアルバンド無線を無効にします。

コマンド デフォルト なし

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

**使用上のガイドライン** Cisco CleanAir 対応のアクセス ポイント無線のみが Cisco CleanAir に設定できます。

次に、アクセス ポイントの Cisco CleanAir を有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11-abgn cleanair enable AP3600 band 5
```

## config 802.11a 11acsupport

802.11ac 5 GHz パラメータを設定するには、次のコマンドを使用します：**config 802.11a 11acsupport**

```
config 802.11a 11acsupport {enable | disable | mcs tx mcs_index ss spatial_stream {enable | disable}}
```

構文の説明	<b>enable</b>	802.11ac 5 GHz モードを有効にします。
	<b>disable</b>	802.11ac 5 GHz モードを無効にします。
	<b>mcs tx</b>	データをアクセス ポイントとクライアント間で送信できる 802.11ac 5 GHz 変調および符号化方式 (MCS) レートを設定します。
	<b>tx</b>	802.11ac 5 GHz MCS 送信レートを設定します。
	<b>mcs_index</b>	MCS インデックス値 (8 または 9)。インデックス 8 または 9 の MCS データ レートは、802.11ac 固有です。インデックス 9 の MCS データ レートを有効にすると、自動的に MCS インデックス 8 のデータ レートが有効になります。
	<b>ss</b>	802.11ac 5 GHz MCS 空間ストリーム (SS) を設定します。
	<b>spatial_stream</b>	MCS データ レートを有効または無効にできる空間ストリーム。  さまざまなアンテナによって送信される信号は、同じスペクトル チャンネル内の異なる空間を使用することによって多重化されます。これらの空間は「空間ストリーム」と呼ばれます。MCS レートを有効または無効にできる 3 つの空間ストリームを利用できます。有効な範囲は 1 ~ 3 です。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

**使用上のガイドライン** 802.11n/ac モードの無効化は、アクセス無線だけに適用されます。バックホール無線は、802.11n に対応している場合、常に 802.11n/ac モードを有効にします。

次に、空間ストリーム 3 の MCS インデックスを設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11a 11acsupport mcs tx 9 ss 3
```

## config 802.11-a antenna extAntGain

アクセスポイントに対して 4.9 GHz および 5.8 GHz Public Safety チャネルの外部アンテナゲインを設定するには、**config 802.11-a antenna extAntGain** コマンドを使用します。

**config {802.11-a49 | 802.11-a58} antenna extAntGain ant\_gain cisco\_ap {global | channel\_no}**

構文の説明	802.11-a49	4.9 GHz Public Safety チャネルを指定します。
	802.11-a58	5.8 GHz Public Safety チャネルを指定します。
	<i>ant_gain</i>	0.5 dBi 単位の値 (例 : 2.5 dBi = 5)
	<i>cisco_ap</i>	このコマンドを適用するアクセスポイントの名前。
	<b>global</b>	すべてのチャネルにアンテナゲイン値を指定します。
	<i>channel_no</i>	特定のチャネルのアンテナゲイン値。

コマンドデフォルト      チャネルプロパティは無効になっています。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

使用上のガイドライン      **config 802.11-a antenna extAntGain** コマンドを入力する前に、**config 802.11-a disable** コマンドでシスコの 802.11 対応無線を無効にします。

外部アンテナゲインを設定した後に、**config 802.11-a enable** コマンドを使用してシスコの 802.11 対応無線を再び有効にします。

次に、802.11-a49 外部アンテナゲインとして 10 dBi を AP1 に設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11-a antenna extAntGain 10 AP1
```

## config 802.11-a channel ap

アクセス ポイントに対して 4.9 GHz および 5.8 GHz Public Safety チャンネルのチャンネル特性を設定するには、**config 802.11-a channel ap** コマンドを使用します。

```
config {802.11-a49 | 802.11-a58} channel ap cisco_ap {global | channel_no}
```

構文の説明	<b>802.11-a49</b>	4.9 GHz Public Safety チャンネルを指定します。
	<b>802.11-a58</b>	5.8 GHz Public Safety チャンネルを指定します。
	<i>cisco_ap</i>	このコマンドを適用するアクセス ポイントの名前。
	<b>global</b>	すべての 4.9 GHz および 5.8 GHz サブ帯域無線に対して動的なチャンネル割り当て (DCA) を有効にします。
	<i>channel_no</i>	特定のメッシュアクセスポイントのカスタムチャンネル。範囲は、4.9 GHz 帯域で 1~26、5.8 GHz で 149~165 です。
コマンドデフォルト	チャンネルプロパティは無効になっています。	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、チャンネルプロパティを設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11-a channel ap
```

## config 802.11-a txpower ap

アクセスポイントに対して 4.9 GHz および 5.8 GHz Public Safety チャンルの伝送パワー特性を設定するには、**config 802.11-a txpower ap** コマンドを使用します。

```
config {802.11-a49 | 802.11-a58} txpower ap cisco_ap {global | power_level}
```

構文の説明		
	<b>802.11-a49</b>	4.9 GHz Public Safety チャンルを指定します。
	<b>802.11-a58</b>	5.8 GHz Public Safety チャンルを指定します。
	<b>txpower</b>	伝送パワー特性を設定します。
	<b>ap</b>	アクセスポイントチャンネルを設定します。
	<i>cisco_ap</i>	このコマンドを適用するアクセスポイントの名前。
	<b>global</b>	すべてのチャンネルに伝送パワー値を適用します。
	<i>power_level</i>	指定したメッシュアクセスポイントに対する伝送パワー値。指定できる範囲は1～5です。

**コマンドデフォルト**      アクセスポイントに対して 4.9 GHz および 5.8 GHz Public Safety チャンルの伝送パワー特性は、デフォルトでは無効になっています。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、802.11-a49 伝送パワー レベルとして 4 を AP1 に設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11-a txpower ap 4 AP1
```



## config 802.11 antenna diversity

802.11 アンテナのダイバーシティ オプションを設定するには、**config 802.11 antenna diversity** コマンドを使用します。

**config 802.11**{a | b} **antenna diversity** {enable | sideA | sideB} *cisco\_ap*

構文の説明	<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
	<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
	<b>enable</b>	ダイバーシティをイネーブルにします。
	<b>sideA</b>	内部アンテナと Cisco Lightweight アクセス ポイントの左ポートに接続されている外部アンテナとの間のダイバーシティを指定します。
	<b>sideB</b>	内部アンテナと Cisco Lightweight アクセス ポイントの右ポートに接続されている外部アンテナとの間のダイバーシティを指定します。
	<i>cisco_ap</i>	Cisco Lightweight アクセス ポイント名。
コマンドデフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、802.11b ネットワーク上の AP01 のアンテナ ダイバーシティを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11a antenna diversity enable AP01
```

次に、Cisco Lightweight アクセス ポイントの左ポート (sideA) に接続されている外部アンテナを使用して、802.11a ネットワーク上の AP01 のダイバーシティを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11a antenna diversity sideA AP01
```

## config 802.11 antenna extAntGain

802.11 ネットワークの外部アンテナ ゲインを設定するには、**config 802.11 antenna extAntGain** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} antenna extAntGain antenna\_gaincisco\_ap**

構文の説明	<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
	<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
	<i>antenna_gain</i>	0.5 dBm 単位でアンテナ ゲインを入力します (例 : 2.5 dBm = 5)。
	<i>cisco_ap</i>	Cisco Lightweight アクセス ポイント名。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

**使用上のガイドライン** **config 802.11 antenna extAntGain** コマンドを入力する前に、**config 802.11 disable** コマンドでシスコの 802.11 対応無線を無効にします。

外部アンテナ ゲインを設定した後に、**config 802.11 enable** コマンドを使用してシスコの 802.11 対応無線を有効にします。

次に、*802.11a* 外部アンテナ ゲインとして *0.5 dBm* を *API* に設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11 antenna extAntGain 1 API
```

## config 802.11 antenna mode

802.11 の 180 度セクター化カバレッジパターンに 1 つの内部アンテナを使用する、または 802.11 の 360 度全方向性カバレッジパターンに両方の内部アンテナを使用する Cisco Lightweight アクセス ポイントを設定するには、**config 802.11 antenna mode** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} antenna mode {omni | sectorA | sectorB} cisco\_ap**

構文の説明	<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
	<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
	<b>omni</b>	両方の内部アンテナを使用するように指定します。
	<b>sectorA</b>	サイド A の内部アンテナだけを使用するように指定します。
	<b>sectorB</b>	サイド B の内部アンテナだけを使用するように指定します。
	<i>cisco_ap</i>	Cisco Lightweight アクセス ポイント名。
コマンドデフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、802.11b ネットワーク上でアクセス ポイント AP01 のアンテナを 360 度全方向性パターンに設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11 antenna mode omni AP01
```

## config 802.11 antenna selection

802.11 ネットワーク上の Cisco Lightweight アクセスポイントに対して内部アンテナまたは外部アンテナの使用を選択するには、**config 802.11 antenna selection** コマンドを使用します。

**config 802.11** {a | b} **antenna selection** {internal | external} *cisco\_ap*

構文の説明	<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
	<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
	<b>internal</b>	内部アンテナを指定します。
	<b>external</b>	外部アンテナを指定します。
	<i>cisco_ap</i>	Cisco Lightweight アクセスポイント名。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、内部アンテナを使用する 802.11b ネットワーク上にアクセスポイント AP02 を設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11a antenna selection internal AP02
```

## config 802.11b 11gSupport

Cisco Wireless LAN ソリューションの 802.11g ネットワークを有効または無効にするには、**config 802.11b 11gSupport** コマンドを使用します。

**config 802.11b 11gSupport** {enable | disable}

構文の説明	<b>enable</b>	802.11g ネットワークを有効にします。
	<b>disable</b>	802.11g ネットワークを無効にします。
コマンド デフォルト	Cisco Wireless LAN ソリューションの 802.11g のネットワークは、デフォルトでは有効になっています。	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

**使用上のガイドライン** **config 802.11b 11gSupport** {enable | disable} コマンドを入力する前に、**config 802.11 disable** コマンドでシスコの 802.11 対応無線を無効にします。

802.11g ネットワークのサポートを設定後、**config 802.11 enable** コマンドを使用して 802.11 無線を有効にします。



(注) 個々の無線 LAN で 802.11a、802.11b および 802.11g ネットワークを無効にするには、**config wlan radio** コマンドを使用します。

次に、802.11g ネットワークを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11b 11gSupport enable
Changing the 11gSupport will cause all the APs to reboot when you enable
802.11b network.
Are you sure you want to continue? (y/n) n
11gSupport not changed!
```

## config 802.11b preamble

サブクローズ 18.2.2.2 で定義されている 802.11b プリアンブルを **long**（遅いが信頼性が高い）または **short**（速いが信頼性が低い）に変更するには、**config 802.11b preamble** コマンドを使用します。

**config 802.11b preamble {long | short}**

構文の説明	long	short
	long 802.11b プリアンブルを指定します。	short 802.11b プリアンブルを指定します。

コマンド デフォルト 802.11b プリアンブルのデフォルト値は short です。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

### 使用上のガイドライン



(注) このコマンドを実装するには、保存して Cisco ワイヤレス LAN コントローラをリブート（システムをリセット）する必要があります。

SpectraLink 社の NetLink 電話など、一部のクライアント向けに Cisco ワイヤレス LAN コントローラを最適化するには、このパラメータを **long** に設定する必要があります。

このコマンドは、CLI インターフェイスがアクティブなときはいつでも使用できます。

次に、802.11b プリアンブルを short に変更する例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11b preamble short
(Cisco Controller) >(reset system with save)
```

## config 802.11h channelswitch

802.11h チャンネル スイッチ通知を設定するには、**config 802.11h channelswitch** コマンドを使用します。

**config 802.11h channelswitch** {enable {loud | quiet} | disable}

構文の説明	<b>enable</b>	802.11h チャンネルスイッチ通知をイネーブルにします。
	<b>disable</b>	802.11h チャンネルスイッチ通知をディセーブルにします。

コマンドデフォルト なし

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	<ul style="list-style-type: none"><li>このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。</li><li><b>loud</b> パラメータと <b>quiet</b> パラメータが導入されました。</li></ul>

次に、802.11h スイッチ通知を無効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11h channelswitch disable
```

## config 802.11h powerconstraint

802.11h の電力制限値を設定するには、**config 802.11h powerconstraint** コマンドを使用します。

**config 802.11h powerconstraint** *value*

構文の説明	<i>value</i>	802.11h の電力制限値。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、802.11h 電力制限を 5 に設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11h powerconstraint 5
```



## config 802.11h setchannel

802.11h チャンネル通知を使用して新規チャンネルを設定するには、**config 802.11h setchannel** コマンドを使用します。

**config 802.11h setchannel** *cisco\_ap*

構文の説明	<i>cisco_ap</i>	Cisco Lightweight アクセス ポイント名。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース7.6以前のリリースで導入されました。

次に、802.11h チャンネルを使用して新しいチャンネルを設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11h setchannel ap02
```

## config 802.11 11nsupport

ネットワークで 802.11n のサポートを有効にするには、**config 802.11 11nsupport** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} 11nsupport {enable | disable}**

### 構文の説明

<b>a</b>	802.11a ネットワーク設定を指定します。
<b>b</b>	802.11b/g ネットワーク設定を指定します。
<b>enable</b>	802.11n サポートをイネーブルにします。
<b>disable</b>	802.11n サポートをディセーブルにします。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

7.6 このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、802.11a ネットワークで 802.11n のサポートを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11a 11nsupport enable
```

## config 802.11 11nsupport a-mpdu tx priority

802.11n パケットに対して使用される集約方法を指定するには、**config 802.11 11nsupport a-mpdu tx priority** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} 11nsupport a-mpdu tx priority {0-7 | all} {enable | disable}**

構文の説明		
<b>a</b>		802.11a ネットワークを指定します。
<b>b</b>		802.11b/g ネットワークを指定します。
<b>0-7</b>		0～7の集約 MAC プロトコル データ ユニットの優先度を指定します。
<b>all</b>		すべての優先度を一度に設定します。
<b>enable</b>		優先度に関連付けられたトラフィックが A-MPDU 伝送を使用するように指定します。
<b>disable</b>		優先度に関連付けられたトラフィックが A-MSDU 伝送を使用するように指定します。

**コマンド デフォルト** 優先度 0 が有効になっています。

**使用上のガイドライン** 集約は、パケット データ フレームを個別に伝送するのではなく、グループにまとめるプロセスです。集約方法には、Aggregated MAC Protocol Data Unit (A-MPDU) と Aggregated MAC Service Data Unit (A-MSDU) の 2 種類があります。A-MPDU はソフトウェアで実行されますが、A-MSDU はハードウェアで実行されます。

トラフィック タイプごとに割り当てられた集約 MAC プロトコル データ ユニットの優先度は次のとおりです。

- 1 : バックグラウンド
- 2 : スペア
- 0 : ベスト エフォート
- 3 : エクセレント エフォート
- 4 : 制御ロード
- 5 : ビデオ (100 ms 未満の遅延およびジッタ)
- 6 : 音声 (10 ms 未満の遅延およびジッタ)
- 7 : ネットワーク コントロール
- all : すべての優先度を一度に設定します。



---

(注) クライアントが使用する集約方法に合わせて優先度を設定します。

---

---

#### コマンド履歴

---

リリース	変更内容
------	------

---

7.6	このコマンドは、リリース7.6以前のリリースで導入されました。
-----	---------------------------------

---

次に、優先度に関連付けられたトラフィックがA-MSDU伝送を使用するようにすべての優先度を設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11a 11nsupport a-mpdu tx priority all enable
```

## config 802.11 11nsupport a-mpdu tx scheduler

802.11n-5 GHz A-MPDU 伝送集約スケジューラを設定するには、**config 802.11 11nsupport a-mpdu tx scheduler** コマンドを使用します。

**config 802.11 { a | b } 11nsupport a-mpdu tx scheduler { enable | disable | timeout rt timeout-value }**

構文の説明	enable	802.11n-5 GHz A-MPDU 伝送集約スケジューラをイネーブルにします。
	disable	802.11n-5 GHz A-MPDU 伝送集約スケジューラをディセーブルにします。
	timeout rt	A-MPDU 伝送集約スケジューラのリアルタイムトラフィックタイムアウトを設定します。
	timeout-value	タイムアウト値はミリ秒単位です。有効範囲は 1 ~ 1000 ミリ秒です。

コマンドデフォルト なし

使用上のガイドライン このコマンドを入力する前に、802.11 ネットワークがディセーブルであることを確認します。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、A-MPDU 伝送集約スケジューラのリアルタイムトラフィックタイムアウトを 100 ミリ秒に設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11 11nsupport a-mpdu tx scheduler timeout rt 100
```

## config 802.11 11nsupport antenna

特定のアンテナを使用するようにアクセスポイントを設定するには、**config 802.11 11nsupport antenna** コマンドを使用します。

```
config 802.11 {a | b} 11nsupport antenna cisco_ap {A | B | C | D} {enable | disable}
```

### 構文の説明

<b>a</b>	802.11a/n ネットワークを指定します。
<b>b</b>	802.11b/g/n ネットワークを指定します。
<i>cisco_ap</i>	アクセスポイント。
<b>A/B/C/D</b>	アンテナポートを指定します。
<b>enable</b>	設定をイネーブルにします。
<b>disable</b>	設定をディセーブルにします。

### コマンド デフォルト

なし

### コマンド履歴

リリース	変更内容
7.6	このコマンドは、リリース7.6以前のリリースで導入されました。

次に、レガシー直交周波数分割多重化用の1つのアンテナに伝送を設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11 11nsupport antenna AP1 C enable
```

## config 802.11 11nsupport guard-interval

ガード間隔を設定するには、**config 802.11 11nsupport guard-interval** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} 11nsupport guard-interval {any | long}**

構文の説明	<b>any</b>	短期または長期ガード間隔をイネーブルにします。
	<b>long</b>	長期ガード間隔のみをイネーブルにします。
コマンドデフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース7.6以前のリリースで導入されました。

次に、長期ガード間隔を設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11 11nsupport guard-interval long
```

## config 802.11 11nsupport mcs tx

アクセス ポイントとクライアントの間でのデータ伝送に使用される Modulation and Coding Scheme (MCS) レートを指定するには、**config 802.11 11nsupport mcs tx** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} 11nsupport mcs tx {0-15} {enable | disable}**

### 構文の説明

<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
<b>11nsupport</b>	802.11n デバイスのサポートを指定します。
<b>mcs tx</b>	次のように変調および符号化方式のデータ レートを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 (7 Mbps)</li> <li>• 1 (14 Mbps)</li> <li>• 2 (21 Mbps)</li> <li>• 3 (29 Mbps)</li> <li>• 4 (43 Mbps)</li> <li>• 5 (58 Mbps)</li> <li>• 6 (65 Mbps)</li> <li>• 7 (72 Mbps)</li> <li>• 8 (14 Mbps)</li> <li>• 9 (29 Mbps)</li> <li>• 10 (43 Mbps)</li> <li>• 11 (58 Mbps)</li> <li>• 12 (87 Mbps)</li> <li>• 13 (116 Mbps)</li> <li>• 14 (130 Mbps)</li> <li>• 15 (144 Mbps)</li> </ul>
<b>enable</b>	この設定をイネーブルにします。
<b>disable</b>	この設定をディセーブルにします。



---

コマンドデフォルト なし

---

コマンド履歴

---

リリース 変更内容  
ス

---

7.6 このコマンドは、リリース7.6以前のリリースで導入されました。

---

次に、MCS レートを指定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11a 11nsupport mcs tx 5 enable
```

## config 802.11 11nsupport rifs

データフレームとその確認応答の間に Reduced Interframe Space (RIFS) を設定するには、**config 802.11 11nsupport rifs** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} 11nsupport rifs {enable | disable}**

構文の説明	<b>enable</b>	802.11 ネットワークの RIFS をイネーブルにします。
	<b>disable</b>	802.11 ネットワークの RIFS をディセーブルにします。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、RIFS を有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11a 11nsupport rifs enable
```

## config 802.11 antenna diversity

802.11 アンテナのダイバーシティ オプションを設定するには、**config 802.11 antenna diversity** コマンドを使用します。

**config 802.11**{a | b} **antenna diversity** {enable | sideA | sideB} *cisco\_ap*

構文の説明	<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
	<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
	<b>enable</b>	ダイバーシティをイネーブルにします。
	<b>sideA</b>	内部アンテナと Cisco Lightweight アクセス ポイントの左ポートに接続されている外部アンテナとの間のダイバーシティを指定します。
	<b>sideB</b>	内部アンテナと Cisco Lightweight アクセス ポイントの右ポートに接続されている外部アンテナとの間のダイバーシティを指定します。
	<i>cisco_ap</i>	Cisco Lightweight アクセス ポイント名。
コマンドデフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、802.11b ネットワーク上の AP01 のアンテナダイバーシティを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11a antenna diversity enable AP01
```

次に、Cisco Lightweight アクセス ポイントの左ポート (sideA) に接続されている外部アンテナを使用して、802.11a ネットワーク上の AP01 のダイバーシティを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11a antenna diversity sideA AP01
```

## config 802.11 antenna extAntGain

802.11 ネットワークの外部アンテナ ゲインを設定するには、**config 802.11 antenna extAntGain** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} antenna extAntGain antenna\_gaincisco\_ap**

構文の説明	<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
	<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
	<i>antenna_gain</i>	0.5 dBm 単位でアンテナ ゲインを入力します (例 : 2.5 dBm = 5)。
	<i>cisco_ap</i>	Cisco Lightweight アクセス ポイント名。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

**使用上のガイドライン** **config 802.11 antenna extAntGain** コマンドを入力する前に、**config 802.11 disable** コマンドでシスコの 802.11 対応無線を無効にします。

外部アンテナ ゲインを設定した後に、**config 802.11 enable** コマンドを使用してシスコの 802.11 対応無線を有効にします。

次に、*802.11a* 外部アンテナ ゲインとして *0.5 dBm* を *API* に設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11 antenna extAntGain 1 API
```

## config 802.11 antenna mode

802.11 の 180 度セクター化カバレッジパターンに 1 つの内部アンテナを使用する、または 802.11 の 360 度全方向性カバレッジパターンに両方の内部アンテナを使用する Cisco Lightweight アクセス ポイントを設定するには、**config 802.11 antenna mode** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} antenna mode {omni | sectorA | sectorB} cisco\_ap**

構文の説明	<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
	<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
	<b>omni</b>	両方の内部アンテナを使用するように指定します。
	<b>sectorA</b>	サイド A の内部アンテナだけを使用するように指定します。
	<b>sectorB</b>	サイド B の内部アンテナだけを使用するように指定します。
	<i>cisco_ap</i>	Cisco Lightweight アクセス ポイント名。
コマンドデフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、802.11b ネットワーク上でアクセス ポイント AP01 のアンテナを 360 度全方向性パターンに設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11 antenna mode omni AP01
```

## config 802.11 antenna selection

802.11 ネットワーク上の Cisco Lightweight アクセスポイントに対して内部アンテナまたは外部アンテナの使用を選択するには、**config 802.11 antenna selection** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} antenna selection {internal | external} cisco\_ap**

構文の説明	<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
	<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
	<b>internal</b>	内部アンテナを指定します。
	<b>external</b>	外部アンテナを指定します。
	<i>cisco_ap</i>	Cisco Lightweight アクセスポイント名。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、内部アンテナを使用する 802.11b ネットワーク上にアクセスポイント AP02 を設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11a antenna selection internal AP02
```

## config 802.11 channel

802.11 ネットワークまたは単一アクセスポイントで自動または手動チャンネル選択を設定するには、**config 802.11 channel** コマンドを使用します。

```
config 802.11 {a | b} channel {global [auto | once | off | restart]} | ap {ap_name [global | channel]}
```

構文の説明		
<b>a</b>		802.11a ネットワークを指定します。
<b>b</b>		802.11b/g ネットワークを指定します。
<b>global</b>		RRM によって自動的に設定される 802.11a 動作チャンネルを指定し、既存の設定を上書きします。
<b>auto</b>		(任意) 802.11a 無線のチャンネルが無線リソース管理 (RRM) によって自動的に設定されるように指定します。
<b>once</b>		(任意) チャンネルが RRM によって一度だけ自動的に設定されるように指定します。
<b>off</b>		(任意) RRM による自動チャンネル選択が無効化されるように指定します。
<b>restarts</b>		(任意) アグレッシブ DCA サイクルを再開します。
<i>ap_name</i>		アクセスポイント名。
<i>channel</i>		アクセスポイントで使用される手動チャンネル番号。サポートされるチャンネルは、使用されるアクセスポイントおよび規制区域によって異なります。
コマンドデフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

**使用上のガイドライン** 単一 Lightweight アクセスポイントで 802.11 チャンネルを設定する場合、**config 802.11 disable** コマンドを入力して 802.11 ネットワークを無効にします。**config 802.11 channel** コマンドを入力して、無線リソース管理 (RRM) による自動チャンネル選択を設定するか、手動で 802.11 無線

のチャンネルを設定し、**config 802.11 enable** コマンドを入力して 802.11 ネットワークを有効にします。



- (注) アクセス ポイントでサポートされているチャンネルについては、ドキュメント『Channels and Maximum Power Settings for Cisco Aironet Lightweight Access Points』を参照してください。パワーレベルおよび使用可能なチャンネルは国コード設定によって定義されており、国別に規制されています。

次に、アベイラビリティおよび干渉に基づいて自動チャンネル設定の 802.11a チャンネルが RRM によって自動的に設定されるようにする例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11a channel global auto
```

次に、アベイラビリティおよび干渉に基づいて 802.11b チャンネルを一度だけ設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11b channel global once
```

次に、802.11a 自動チャンネル設定をオフにする例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11a channel global off
```

次に、自動チャンネルの設定でアクセス ポイント AP01 に 802.11b チャンネルを設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11b AP01 channel global
```

次に、デフォルトのチャンネルとしてアクセス ポイント AP01 に 802.11a チャンネル 36 を設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11a channel AP01 36
```



## config 802.11 channel ap

アクセスポイントの通信無線チャンネルを設定するには、**config 802.11 channel ap** コマンドを使用します。

**config 802.11** { **a** | **b** } **channel ap** *cisco\_ap* { **global** | *channel\_no* }

構文の説明	<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
	<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
	<i>cisco_ap</i>	Cisco アクセスポイントの名前。
	<b>global</b>	指定したアクセスポイント上で自動 RF を有効にします。
	<i>channel_no</i>	デフォルトのチャンネル (1~26) 。
コマンドデフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、802.11b ネットワーク上のアクセスポイント AP01 の自動 RF を有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11b channel ap AP01 global
```

## config 802.11 chan\_width

特定のアクセス ポイントのチャンネル幅を設定するには、**config 802.11 chan\_width** コマンドを使用します。

```
config 802.11 {a | b} chan_width cisco_ap {20 | 40 | 80 | 160 | best}
```

### 構文の説明

<b>a</b>	スロット 1 の 802.11a 無線とスロット 2 の 802.11ac 無線を設定します。
<b>b</b>	802.11b/g 無線を指定します。
<i>cisco_ap</i>	アクセス ポイント。
<b>20</b>	20MHzチャンネルだけを使用する無線の通信を許可します。  20MHzチャンネルだけを使用して通信するレガシー 802.11a 無線、20 MHz 802.11n 無線、または 40 MHz 802.11n 無線の場合にこのオプションを選択します。
<b>40</b>	隣接する 2 つの 20 MHz チャンネルを結合して使用する 40 MHz 802.11n 無線の通信を許可します。
<b>80</b>	隣接する 2 つの 40 MHz チャンネルを結合して使用する 80 MHz の 802.11ac 無線の通信を許可します。
<b>160</b>	160 MHz の 802.11ac 無線の通信を許可します。
<b>best</b>	このモードでは、デバイスが最適な帯域幅チャンネルを選択します。

### コマンド デフォルト

デフォルトのチャンネル幅は 20 です。

### コマンド履歴

リリース	変更内容
7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。
8.3	このコマンドは、160 MHz および最適なチャンネル帯域幅のモードを含むように、このリリースで拡張されました。

**使用上のガイドライン** このパラメータは、プライマリ チャンネルが静的に割り当てられている場合にだけ設定できません。



**注意** 2.4 GHz 無線帯域内で 40 MHz チャンネルを設定することは、重大な同一チャンネル干渉を発生させる可能性があるため推奨されません。

アクセス ポイントの無線を 20 MHz モードまたは 40 MHz モードに静的に設定すると、グローバルに設定されている動的なチャンネル割り当て (DCA) チャンネル幅の設定 (**config advanced 802.11 channel dca chan-width** コマンドを使用して設定) は上書きされます。このアクセス ポイントの無線に対する静的な設定をグローバルに戻すように変更すると、それまでアクセス ポイントで使用されていたチャンネル幅がグローバルな DCA 設定で上書きされます。

次に、40 MHz チャンネルを使用して 802.11 ネットワークでアクセス ポイント AP01 のチャンネル幅を設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11a chan_width AP01 40
```

## config 802.11 rx-sop threshold

各 802.11 帯域の RxSOP (Receiver Start of Packet Detection Threshold) のしきい値を設定するには、**config 802.11 rx-sop threshold** コマンドを使用します。

```
config {802.11a | 802.11b} rx-sop threshold {high | medium | low | auto} {ap ap_name | default}
```

構文の説明	
<b>802.11a</b>	802.11a ネットワークの RxSOP しきい値を設定します。
<b>802.11b</b>	802.11b ネットワークの RxSOP しきい値を設定します。
<b>high</b>	802.11a/b ネットワークの高レベルの RxSOP しきい値を設定します。
<b>medium</b>	802.11a/b ネットワークの中レベルの RxSOP しきい値を設定します。
<b>low</b>	802.11a/b ネットワークの低レベルの RxSOP しきい値を設定します。
<b>auto</b>	802.11a/b ネットワークの自動 RxSOP しきい値を設定します。auto を選択すると、アクセスポイントが最適な RxSOP しきい値を決定します。
<b>ap ap_name</b>	802.11 ネットワークのアクセスポイントで RxSOP しきい値を設定します。
<b>default</b>	802.11 ネットワークのすべてのアクセスポイントで RxSOP しきい値を設定します。

コマンド デフォルト      デフォルトの RxSOP しきい値オプションは auto です。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	8.0	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン      RxSOP は、アクセスポイントの無線がパケットを復調してデコードする dBm 単位の Wi-Fi 信号レベルを決定します。レベルが高いほど、無線機の感度が低く、レシーバセルサイズが小さくなります。次の表に、各 802.11 帯域の高、中、低レベルの RxSOP しきい値を示します。

表 1: RxSOP しきい値

802.11 帯	高しきい値	中しきい値	低しきい値
5 GHz	-76 dBm	-78 dBm	-80 dBm
2.4 GHz	-79 dBm	-82 dBm	-85 dBm

次に、802.11a 帯域のすべてのアクセスポイントに関して高レベルの RxSOP しきい値を設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11a rx-sop threshold high
```

## config 802.11 txPower

802.11 ネットワーク内のすべてのアクセス ポイントまたは単一アクセス ポイントに対して伝送パワー レベルを設定するには、**config 802.11 txPower** コマンドを使用します。

```
config 802.11 {a | b} txPower {global {power_level | auto | max | min | once } | ap
cisco_ap}
```

構文の説明		
	<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
	<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
	<b>global</b>	すべての Lightweight アクセス ポイントに対して 802.11 伝送パワー レベルを設定します。
	<b>auto</b>	(任意) シスコの 802.11 対応無線のパワー レベルが無線リソース管理 (RRM) によって自動的に設定されるように指定します。
	<b>once</b>	(任意) パワー レベルが RRM によって一度だけ自動的に設定されるように指定します。
	<i>power_level</i>	(任意) アクセス ポイントに手動で設定する伝送パワー レベルの数値。
	<b>ap</b>	指定した Lightweight アクセス ポイントに対して 802.11 伝送パワー レベルを設定します。
	<i>ap_name</i>	アクセス ポイント名。

コマンド デフォルト      コマンドのデフォルト (**global**、**auto**) は RRM による自動設定用です。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

**使用上のガイドライン**      サポートされる伝送パワーは、使用されるアクセス ポイントおよび規制区域によって異なります。たとえば、1240 シリーズ アクセス ポイントは 8 レベル、1200 シリーズ アクセス ポイントは 6 レベルをサポートしています。アクセス ポイントの最大伝送パワー限度については、ドキュメント『Channels and Maximum Power Settings for Cisco Aironet Lightweight Access Points』を参照してください。パワー レベルおよび使用可能なチャネルは国コード設定によって定義されており、国別に規制されています。

次に、すべての Lightweight アクセス ポイントで 802.11a 無線の伝送パワー レベルを自動的に設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11a txPower auto
```

次に、すべての Lightweight アクセス ポイントに 802.11b 無線の伝送パワーを手動でレベル 5 に設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11b txPower global 5
```

次に、アクセス ポイント AP1 で 802.11b 無線の伝送パワーを自動的に設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11b txPower AP1 global
```

次に、アクセス ポイント AP1 に 802.11a 無線の伝送パワーを手動でレベル 2 に設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11b txPower AP1 2
```

---

#### 関連コマンド

```
show ap config 802.11a  
config 802.11b txPower
```

## config 802.11 beamforming

ネットワークまたは個々の無線に対してビームフォーミング（ClientLink）を有効または無効にするには、**config 802.11 beamforming** コマンドを入力します。

**config 802.11 {a | b} beamforming {global | ap ap\_name} {enable | disable}**

構文の説明	<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
	<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
	<b>global</b>	すべての Lightweight アクセスポイントを指定します。
	<b>ap ap_name</b>	Cisco アクセスポイント名を指定します。
	<b>enable</b>	ビームフォーミングを有効にします。
	<b>disable</b>	ビームフォーミングを無効にします。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

### 使用上のガイドライン

ネットワークに対してビームフォーミングを有効にすると、そのネットワークタイプに対応するすべての無線に対してビームフォーミングが自動的に有効になります。

ビームフォーミングを使用する際は、次のガイドラインに従ってください。

- ビームフォーミングは、レガシー直交周波数分割多重（OFDM）データ レート（6、9、12、18、24、36、48、および 54 mbps）でだけサポートされています。



(注) ビームフォーミングは、相補型符号変調（CCK）データ レート（1、2、5.5、および 11 Mbps）ではサポートされていません。

- ビームフォーミングは、802.11n に対応したアクセスポイント（AP1250 および AP1140）でだけサポートされます。
- 送信用に 2 本以上のアンテナを有効にする必要があります。
- 受信用に 3 本すべてのアンテナを有効にする必要があります。
- OFDM レートを有効にする必要があります。



送信アンテナがアンテナ設定により 1 本に制限されている場合、あるいは OFDM レートが無効になっている場合、ビームフォーミングは使用されません。

次に、802.11a ネットワーク上でビームフォーミングを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11 beamforming global enable
```

## config 802.11h channelswitch

802.11h チャンネル スイッチ通知を設定するには、**config 802.11h channelswitch** コマンドを使用します。

**config 802.11h channelswitch** {enable {loud | quiet} | disable}

構文の説明	<b>enable</b>	802.11h チャンネル スイッチ通知をイネーブルにします。
	<b>disable</b>	802.11h チャンネル スイッチ通知をディセーブルにします。

コマンド デフォルト なし

コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

- 7.6
- このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。
  - **loud** パラメータと **quiet** パラメータが導入されました。

次に、802.11h スイッチ通知を無効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11h channelswitch disable
```

## config 802.11h powerconstraint

802.11h の電力制限値を設定するには、**config 802.11h powerconstraint** コマンドを使用します。

**config 802.11h powerconstraint** *value*

構文の説明	<i>value</i>	802.11h の電力制限値。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース 7.6	変更内容 このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、802.11h 電力制限を 5 に設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11h powerconstraint 5
```

## config 802.11h setchannel

802.11h チャンネル通知を使用して新規チャンネルを設定するには、**config 802.11h setchannel** コマンドを使用します。

**config 802.11h setchannel** *cisco\_ap*

構文の説明	<i>cisco_ap</i>	Cisco Lightweight アクセス ポイント名。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース7.6以前のリリースで導入されました。

次に、802.11h チャンネルを使用して新しいチャンネルを設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11h setchannel ap02
```

## config 802.11h smart dfs

802.11h smart-dfs 機能を有効または無効にするには、**config 802.11h smart-dfs** コマンドを使用します。

**config 802.11h smart-dfs {enable | disable}**

### 構文の説明

**enable**

レーダー干渉チャネルの非占有時間の倍増を有効にします。

**disable**

非占有時間の倍増を無効にして、レーダー干渉チャネルの従来（30分）の時間を使用します。

従来（DFS）の動作に適合させるには **disable** を使用してください。

### コマンドデフォルト

イネーブル

### コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

8.2.141.0 このコマンドが導入されました。

次に、802.11h smart-dfs を有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11h smart-dfs enable
```

## config 802.11 11nsupport

ネットワークで 802.11n のサポートを有効にするには、**config 802.11 11nsupport** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} 11nsupport {enable | disable}**

構文の説明	a	802.11a ネットワーク設定を指定します。
	b	802.11b/g ネットワーク設定を指定します。
	enable	802.11n サポートをイネーブルにします。
	disable	802.11n サポートをディセーブルにします。

コマンド デフォルト なし

コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

7.6 このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、802.11a ネットワークで 802.11n のサポートを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11a 11nsupport enable
```

## config 802.11 11nsupport a-mpdu tx priority

802.11n パケットに対して使用される集約方法を指定するには、**config 802.11 11nsupport a-mpdu tx priority** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} 11nsupport a-mpdu tx priority {0-7 | all} {enable | disable}**

構文の説明		
<b>a</b>		802.11a ネットワークを指定します。
<b>b</b>		802.11b/g ネットワークを指定します。
<b>0-7</b>		0～7の集約 MAC プロトコル データ ユニットの優先度を指定します。
<b>all</b>		すべての優先度を一度に設定します。
<b>enable</b>		優先度に関連付けられたトラフィックが A-MPDU 伝送を使用するように指定します。
<b>disable</b>		優先度に関連付けられたトラフィックが A-MSDU 伝送を使用するように指定します。

**コマンド デフォルト** 優先度 0 が有効になっています。

**使用上のガイドライン** 集約は、パケット データ フレームを個別に伝送するのではなく、グループにまとめるプロセスです。集約方法には、Aggregated MAC Protocol Data Unit (A-MPDU) と Aggregated MAC Service Data Unit (A-MSDU) の 2 種類があります。A-MPDU はソフトウェアで実行されますが、A-MSDU はハードウェアで実行されます。

トラフィック タイプごとに割り当てられた集約 MAC プロトコル データ ユニットの優先度は次のとおりです。

- 1 : バックグラウンド
- 2 : スペア
- 0 : ベスト エフォート
- 3 : エクセレント エフォート
- 4 : 制御ロード
- 5 : ビデオ (100 ms 未満の遅延およびジッタ)
- 6 : 音声 (10 ms 未満の遅延およびジッタ)
- 7 : ネットワーク コントロール
- all : すべての優先度を一度に設定します。



---

(注) クライアントが使用する集約方法に合わせて優先度を設定します。

---

---

#### コマンド履歴

---

リリース	変更内容
------	------

---

7.6	このコマンドは、リリース7.6以前のリリースで導入されました。
-----	---------------------------------

---

次に、優先度に関連付けられたトラフィックがA-MSDU伝送を使用するようにすべての優先度を設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11a 11nsupport a-mpdu tx priority all enable
```



## config 802.11 11nsupport a-mpdu tx scheduler

802.11n-5 GHz A-MPDU 伝送集約スケジューラを設定するには、**config 802.11 11nsupport a-mpdu tx scheduler** コマンドを使用します。

**config 802.11 { a | b } 11nsupport a-mpdu tx scheduler { enable | disable | timeout rt timeout-value }**

構文の説明	enable	802.11n-5 GHz A-MPDU 伝送集約スケジューラをイネーブルにします。
	disable	802.11n-5 GHz A-MPDU 伝送集約スケジューラをディセーブルにします。
	timeout rt	A-MPDU 伝送集約スケジューラのリアルタイムトラフィックタイムアウトを設定します。
	timeout-value	タイムアウト値はミリ秒単位です。有効範囲は 1 ~ 1000 ミリ秒です。

コマンドデフォルト なし

使用上のガイドライン このコマンドを入力する前に、802.11 ネットワークがディセーブルであることを確認します。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、A-MPDU 伝送集約スケジューラのリアルタイムトラフィックタイムアウトを 100 ミリ秒に設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11 11nsupport a-mpdu tx scheduler timeout rt 100
```

## config 802.11 11nsupport antenna

特定のアンテナを使用するようにアクセスポイントを設定するには、**config 802.11 11nsupport antenna** コマンドを使用します。

```
config 802.11 {a | b} 11nsupport antenna cisco_ap {A | B | C | D} {enable | disable}
```

構文の説明		
	<b>a</b>	802.11a/n ネットワークを指定します。
	<b>b</b>	802.11b/g/n ネットワークを指定します。
	<i>cisco_ap</i>	アクセスポイント。
	<b>A/B/C/D</b>	アンテナポートを指定します。
	<b>enable</b>	設定をイネーブルにします。
	<b>disable</b>	設定をディセーブルにします。

コマンド デフォルト なし

### コマンド履歴

リリース	変更内容
7.6	このコマンドは、リリース7.6以前のリリースで導入されました。

次に、レガシー直交周波数分割多重化用の1つのアンテナに伝送を設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11 11nsupport antenna AP1 C enable
```

## config 802.11 11nsupport guard-interval

ガード間隔を設定するには、**config 802.11 11nsupport guard-interval** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} 11nsupport guard-interval {any | long}**

構文の説明	<b>any</b>	短期または長期ガード間隔をイネーブルにします。
	<b>long</b>	長期ガード間隔のみをイネーブルにします。
コマンドデフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース7.6以前のリリースで導入されました。

次に、長期ガード間隔を設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11 11nsupport guard-interval long
```

## config 802.11 11nsupport mcs tx

アクセス ポイントとクライアントの間でのデータ伝送に使用される Modulation and Coding Scheme (MCS) レートを指定するには、**config 802.11 11nsupport mcs tx** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} 11nsupport mcs tx {0-15} {enable | disable}**

### 構文の説明

<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
<b>11nsupport</b>	802.11n デバイスのサポートを指定します。
<b>mcs tx</b>	次のように変調および符号化方式のデータ レートを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0 (7 Mbps)</li> <li>• 1 (14 Mbps)</li> <li>• 2 (21 Mbps)</li> <li>• 3 (29 Mbps)</li> <li>• 4 (43 Mbps)</li> <li>• 5 (58 Mbps)</li> <li>• 6 (65 Mbps)</li> <li>• 7 (72 Mbps)</li> <li>• 8 (14 Mbps)</li> <li>• 9 (29 Mbps)</li> <li>• 10 (43 Mbps)</li> <li>• 11 (58 Mbps)</li> <li>• 12 (87 Mbps)</li> <li>• 13 (116 Mbps)</li> <li>• 14 (130 Mbps)</li> <li>• 15 (144 Mbps)</li> </ul>
<b>enable</b>	この設定をイネーブルにします。
<b>disable</b>	この設定をディセーブルにします。

---

コマンドデフォルト なし

---

コマンド履歴

---

リリース 変更内容  
ス

---

7.6 このコマンドは、リリース7.6以前のリリースで導入されました。

---

次に、MCS レートを指定する例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11a 11nsupport mcs tx 5 enable
```

## config 802.11 11nsupport rifs

データフレームとその確認応答の間に Reduced Interframe Space (RIFS) を設定するには、**config 802.11 11nsupport rifs** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} 11nsupport rifs {enable | disable}**

構文の説明	<b>enable</b>	802.11 ネットワークの RIFS をイネーブルにします。
	<b>disable</b>	802.11 ネットワークの RIFS をディセーブルにします。
コマンド デフォルト	なし	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、RIFS を有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11a 11nsupport rifs enable
```

## config 802.11 beacon period

802.11a、802.11b、または他のサポートされる 802.11 ネットワークに対してビーコン周期をグローバルに変更するには、**config 802.11 beacon period** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} beacon period *time\_units***



(注) このコマンドを使用する前に、802.11 ネットワークを無効にします。「使用上のガイドライン」の項を参照してください。

### 構文の説明

<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
<i>time_units</i>	時間単位 (TU) でのビーコン間隔。1 TU は 1024 マイクロ秒です。

### コマンドデフォルト

なし

### 使用上のガイドライン

Cisco Wireless LAN ソリューションの 802.11 ネットワークでは、すべての Cisco Lightweight アクセス ポイント (無線 LAN) が定期的にビーコンをブロードキャストします。このビーコンは、クライアントに 802.11a サービスが使用可能なことを通知し、クライアントは Lightweight アクセス ポイントと同期できます。

ビーコン期間を変更する前に、**config 802.11 disable** コマンドを使用して 802.11 ネットワークを無効にしてください。ビーコン期間を変更した後、**config 802.11 enable** コマンドを使用して 802.11 ネットワークを有効にします。

### コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

7.6 このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、120 時間単位のビーコン周期に合わせて 802.11a ネットワークを設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11 beacon period 120
```

### 関連コマンド

**show 802.11a**  
**config 802.11b beaconperiod**  
**config 802.11a disable**  
**config 802.11a enable**

## config 802.11 cac defaults

802.11a および 802.11b/g ネットワークのデフォルトの Call Admission Control (CAC) パラメータを設定するには、**config 802.11 cac defaults** コマンドを使用します。

### config 802.11 {a | b} cac defaults

#### 構文の説明

**a** 802.11a ネットワークを指定します。

**b** 802.11b/g ネットワークを指定します。

#### 使用上のガイドライン

802.11a または 802.11b/g ネットワークでのビデオアプリケーションに対して CAC コマンドを実行するには、変更しようとしている WLAN に Wi-Fi Multimedia (WMM) プロトコルが設定され、また Quality of Service (QoS) のレベルが Gold にセットされている必要があります。

ネットワーク上で CAC パラメータを設定するには、次の準備作業を完了しておく必要があります。

- **config wlan disable wlan\_id** コマンドを入力して、WMM が有効になっているすべての WLAN を無効にします。
- **config 802.11 {a | b} disable network** コマンドを入力して、設定する無線ネットワークを無効にします。
- 次のコマンドを入力して、新しい設定を保存します。 **save config command**.
- **config 802.11 {a | b} cac voice acm enable** コマンドまたは **config 802.11 {a | b} cac video acm enable** コマンドを入力して、設定するネットワークの音声またはビデオ CAC を有効にします。

詳細な手順については、使用しているリリースの『Cisco Wireless LAN Controller Configuration Guide』の「Configuring Controller Settings」の章の「Configuring Voice and Video Parameters」の項を参照してください。

#### コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

7.6 このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、802.11a ネットワークのデフォルト CAC パラメータを設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11 cac defaults
```

#### 関連コマンド

**show cac voice stats**

**show cac voice summary**

**show cac video stats**



```
show cac video summary
config 802.11 cac video tspec-inactivity-timeout
config 802.11 cac video max-bandwidth
config 802.11 cac video acm
config 802.11 cac video sip
config 802.11 cac video roam-bandwidth
config 802.11 cac load-based
config 802.11 cac media-stream
config 802.11 cac multimedia
config 802.11 cac video cac-method
debug cac
```

## config 802.11 cac video acm

802.11a または 802.11b/g ネットワークに対してビデオ コール アドミッション制御 (CAC) を有効または無効にするには、**config 802.11 cac video acm** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} cac video acm {enable | disable}**

構文の説明	a	802.11a ネットワークを指定します。
	b	802.11b/g ネットワークを指定します。
	enable	ビデオ CAC 設定をイネーブルにします。
	disable	ビデオ CAC 設定をディセーブルにします。

**コマンド デフォルト** 802.11a ネットワークまたは 802.11b/g ネットワークのビデオ CAC 設定はデフォルトでは無効になっています。

**使用上のガイドライン** CAC コマンドを使用するには、変更を予定している WLAN を Wi-Fi Multimedia (WMM) プロトコルに対応するように設定し、Quality of Service (QoS) レベルを Platinum に設定する必要があります。

ネットワーク上で CAC パラメータを設定するには、次の準備作業を完了しておく必要があります。

- **config wlan disable wlan\_id** コマンドを入力して、WMM が有効になっているすべての WLAN を無効にします。
- **config 802.11 {a | b} disable network** コマンドを入力して、設定する無線ネットワークを無効にします。
- **save config** コマンドを入力して、新しい設定を保存します。
- **config 802.11 {a | b} cac voice acm enable** コマンドまたは **config 802.11 {a | b} cac video acm enable** コマンドを入力して、設定するネットワークの音声またはビデオ CAC を有効にします。

詳細な手順については、使用しているリリースの『Cisco Wireless LAN Controller Configuration Guide』の「Configuring Controller Settings」の章の「Configuring Voice and Video Parameters」の項を参照してください。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、802.11a ネットワークのビデオ CAC を有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11 cac video acm enable
```

次に、802.11b ネットワークのビデオ CAC を無効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11 cac video acm disable
```

---

#### 関連コマンド

**config 802.11 cac video max-bandwidth**

**config 802.11 cac video roam-bandwidth**

**config 802.11 cac video tspec-inactivity-timeout**

## config 802.11 cac video cac-method

802.11a または 802.11b/g ネットワークでのビデオアプリケーションの Call Admission Control (CAC) 方式を設定するには、**config 802.11 cac video cac-method** コマンドを使用します。

**config 802.11 { a | b } cac video cac-method { static | load-based }**

### 構文の説明

<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
<b>static</b>	<p>802.11a または 802.11b/g ネットワークでのビデオアプリケーションのスタティック CAC 方式をイネーブルにします。</p> <p>スタティックまたは帯域幅ベースの CAC を使用して、クライアントは、新しいビデオ要求を受け入れるためにどの程度の帯域幅と共有メディア時間が必要であるかを指定することができ、その結果、要求に対処できるかどうかを判断するためのアクセス ポイントを使用できるようになります。</p>
<b>load-based</b>	<p>802.11a または 802.11b/g ネットワークでのビデオアプリケーションの負荷ベースの CAC 方式をイネーブルにします。</p> <p>負荷ベースの CAC またはダイナミック CAC で取り入れられている測定方式では、それ自体からのすべてのトラフィックタイプによって同一チャネルアクセス ポイントで消費される帯域幅や、同一チャネルの干渉によって消費される帯域幅が考慮されています。負荷ベースの CAC では、PHY およびチャネル欠陥の結果発生する追加の帯域幅消費も対象となります。アクセス ポイントは、コールをサポートするのに十分なだけの未使用帯域幅がチャネルにある場合に限り、新規のコールを許可します。</p> <p>SIP-CAC がイネーブルのときは、負荷ベースの CAC はサポートされません。</p>

### コマンド デフォルト

Static

### 使用上のガイドライン

802.11a または 802.11b/g ネットワークでのビデオアプリケーションに対して CAC コマンドを実行するには、変更しようとしている WLAN に Wi-Fi Multimedia (WMM) プロトコルが設定され、また Quality of Service (QoS) のレベルが Gold にセットされている必要があります。

ネットワーク上で CAC パラメータを設定するには、次の準備作業を完了しておく必要があります。

- **config wlan disable wlan\_id** コマンドを入力して、WMM が有効になっているすべての WLAN を無効にします。

- **config 802.11 {a | b} disable network** コマンドを入力して、設定する無線ネットワークを無効にします。
- **save config** コマンドを入力して、新しい設定を保存します。
- **config 802.11 {a | b} cac voice acm enable** コマンドまたは **config 802.11 {a | b} cac video acm enable** コマンドを入力して、設定するネットワークの音声またはビデオ CAC を有効にします。

詳細な手順については、使用しているリリースの『*Cisco Wireless LAN Controller Configuration Guide*』の「Configuring Controller Settings」の章の「Configuring Voice and Video Parameters」の項を参照してください。

ビデオ CAC は、ユニキャスト ビデオ CAC と MC2UC CAC の 2 つのパートで構成されています。ユニキャスト ビデオ CAC だけがが必要な場合は、スタティック モードだけを設定します。MC2UC CAC だけがが必要な場合は、スタティックまたは負荷ベースの CAC を設定します。SIP-CAC がイネーブルのときは、負荷ベースの CAC はサポートされません。

---

#### コマンド履歴

---

リリース 変更内容  
ス

---

7.6 このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

---

次に、802.11a ネットワークでビデオ アプリケーションのスタティック CAC 方式をイネーブルにする例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11 cac video cac-method static
```

---

#### 関連コマンド

**show cac voice stats**  
**show cac voice summary**  
**show cac video stats**  
**show cac video summary**  
**config 802.11 cac video tspec-inactivity-timeout**  
**config 802.11 cac video max-bandwidth**  
**config 802.11 cac video acm**  
**config 802.11 cac video sip**  
**config 802.11 cac video roam-bandwidth**  
**config 802.11 cac load-based**  
**config 802.11 cac defaults**  
**config 802.11 cac media-stream**  
**config 802.11 cac multimedia**  
**debug cac**

## config 802.11 cac video load-based

802.11a または 802.11b/g ネットワーク上でビデオアプリケーションに対して負荷ベースの Admission Control (CAC) を有効または無効にするには、**config 802.11 cac video load-based** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} cac video load-based {enable | disable}**

構文の説明	
<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
<b>enable</b>	802.11a または 802.11b/g ネットワーク上でビデオアプリケーションの負荷ベースの CAC をイネーブルにします。  負荷ベースの CAC または ダイナミック CAC で取り入れられている測定方式では、それ自体からのすべてのトラフィックタイプによって同一チャネルアクセスポイントで消費される帯域幅や、同一チャネルの干渉によって消費される帯域幅が考慮されています。負荷ベースの CAC では、PHY およびチャネル欠陥の結果発生する追加の帯域幅消費も対象となります。アクセスポイントは、コールをサポートするのに十分なだけの未使用帯域幅がチャネルにある場合に限り、新規のコールを許可します。
<b>disable</b>	802.11a または 802.11b/g ネットワークのビデオアプリケーションの負荷ベースの CAC 方式をディセーブルにします。

コマンド デフォルト      ディセーブル

**使用上のガイドライン** 802.11a または 802.11b/g ネットワークでのビデオアプリケーションに対して CAC コマンドを実行するには、変更しようとしている WLAN に Wi-Fi Multimedia (WMM) プロトコルが設定され、また Quality of Service (QoS) のレベルが Gold にセットされている必要があります。

ネットワーク上で CAC パラメータを設定するには、次の準備作業を完了しておく必要があります。

- **config wlan disable wlan\_id** コマンドを入力して、WMM が有効になっているすべての WLAN を無効にします。
- **config 802.11 {a | b} disable network** コマンドを入力して、設定する無線ネットワークを無効にします。
- 次のコマンドを入力して、新しい設定を保存します。 **save config command**。
- **config 802.11 {a | b} cac voice acm enable** コマンドまたは **config 802.11 {a | b} cac video acm enable** コマンドを入力して、設定するネットワークの音声またはビデオ CAC を有効にします。

詳細な手順については、使用しているリリースの『*Cisco Wireless LAN Controller Configuration Guide*』の「Configuring Controller Settings」の章の「Configuring Voice and Video Parameters」の項を参照してください。

ビデオ CAC は、ユニキャスト ビデオ CAC と MC2UC CAC の 2 つのパートで構成されています。ユニキャストビデオ CAC だけが必要な場合は、スタティックモードだけを設定します。MC2UC CAC だけが必要な場合は、スタティックまたは負荷ベースの CAC を設定します。SIP-CAC がイネーブルのときは、負荷ベースの CAC はサポートされません。



(注) SIP-CAC がイネーブルのときは、負荷ベースの CAC はサポートされません。

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、802.11a ネットワークでビデオ アプリケーションに対して負荷ベースの CAC の方式をイネーブルにする例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11 cac video load-based enable
```

#### 関連コマンド

**show cac voice stats**  
**show cac voice summary**  
**show cac video stats**  
**show cac video summary**  
**config 802.11 cac video tspec-inactivity-timeout**  
**config 802.11 cac video max-bandwidth**  
**config 802.11 cac video acm**  
**config 802.11 cac video sip**  
**config 802.11 cac video roam-bandwidth**  
**config 802.11 cac load-based**  
**config 802.11 cac defaults**  
**config 802.11 cac media-stream**  
**config 802.11 cac multimedia**  
**config 802.11 cac video cac-method**  
**debug cac**

## config 802.11 cac video max-bandwidth

802.11a または 802.11b/g ネットワーク上でクライアントに割り当てられる最大帯域幅のうち、ビデオ アプリケーション用に使用する割合を設定するには、**config 802.11 cac video max-bandwidth** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} cac video max-bandwidth bandwidth**

構文の説明	<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
	<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
	<i>bandwidth</i>	5 ~ 85 % の帯域の割合値。

**コマンド デフォルト** 802.11a または 802.11b/g ネットワークでビデオアプリケーション用にクライアントに割り当てられるデフォルトの最大帯域幅は、0 % です。

**使用上のガイドライン** 音声とビデオの最大無線周波数 (RF) 帯域幅が合計で 85 % を超えてはなりません。クライアントが指定値に達すると、このネットワーク上での新しいコールはアクセスポイントで拒否されます。



(注) このパラメータがゼロ (0) に設定されている場合、コントローラは帯域幅を割り当てないものと想定して、すべての帯域幅の要求を許可します。

コールアドミッション制御 (CAC) コマンドでは、変更を予定している WLAN を Wi-Fi Multimedia (WMM) プロトコルに対応するように設定し、Quality of Service (QoS) レベルを Platinum に設定する必要があります。

ネットワーク上で CAC パラメータを設定するには、次の準備作業を完了しておく必要があります。

- **config wlan disable wlan\_id** コマンドを入力して、WMM が有効になっているすべての WLAN を無効にします。
- **config 802.11 {a | b} disable network** コマンドを入力して、設定する無線ネットワークを無効にします。
- 次のコマンドを入力して、新しい設定を保存します。 **save config command.**
- **config 802.11 {a | b} cac voice acm enable** コマンドまたは **config 802.11 {a | b} cac video acm enable** コマンドを入力して、設定するネットワークの音声またはビデオ CAC を有効にします。

詳細な手順については、使用しているリリースの『Cisco Wireless LAN Controller Configuration Guide』の「Configuring Controller Settings」の章の「Configuring Voice and Video Parameters」の項を参照してください。



---

**コマンド履歴**

---

リリース	変更内容
------	------

---

7.6	このコマンドは、リリース7.6以前のリリースで導入されました。
-----	---------------------------------

---

次に、選択した無線帯域でビデオアプリケーションに割り当てられる最大帯域幅の割合を指定する例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11 cac video max-bandwidth 50
```

---

**関連コマンド**

**config 802.11 cac video acm**

**config 802.11 cac video roam-bandwidth**

**config 802.11 cac voice stream-size**

**config 802.11 cac voice roam-bandwidth**

## config 802.11 cac media-stream

802.11a、802.11b ネットワークのメディア ストリーム Call Admission Control (CAC) の音声とビデオのパラメータを設定するには、**config 802.11 cac media-stream** コマンドを使用します。

**config 802.11 { a | b } cac media-stream multicast-direct { max-retry-percent *retry-percentage* | min-client-rate *dot11-rate* }**

構文の説明		
<b>a</b>		802.11a ネットワークを指定します。
<b>b</b>		802.11b/g ネットワークを指定します。
<b>multicast-direct</b>		マルチキャスト直接メディア ストリーム用の CAC パラメータを設定します。
<b>max-retry-percent</b>		マルチキャスト直接メディアストリームに許可される最大再試行回数の割合を設定します。
<i>retry-percentage</i>		マルチキャスト直接メディアストリームに許可される最大再試行回数の割合。
<b>min-client-rate</b>		マルチキャスト直接メディアストリーム用のクライアントに最小のデータ送信レートを設定します。
<i>dot11-rate</i>		マルチキャスト直接メディアストリーム用のクライアントへの最小のデータ送信レート。クライアントが実行できる kbps 単位のレート。  伝送データレートがこのレートを下回ると、ビデオが起動しないか、クライアントが不良クライアントとして分類される可能性があります。不良クライアントビデオは、より良いエフォートの QoS のために降格されたり、拒否される可能性があります。使用可能なデータレートは、6000、9000、12000、18000、24000、36000、48000、54000、および 11n レートです。

**コマンド デフォルト** 最大再試行回数の割合のデフォルト値は 80 です。80 を超えると、ビデオが開始されないか、クライアントが不良クライアントとして分類される場合があります。不良クライアントビデオは、より良いエフォートの QoS のために降格されたり、拒否されたりします。

**使用上のガイドライン** 802.11a または 802.11b/g ネットワークでのビデオアプリケーションに対して CAC コマンドを実行するには、変更しようとしている WLAN に Wi-Fi Multimedia (WMM) プロトコルが設定され、また Quality of Service (QoS) のレベルが Gold にセットされている必要があります。

ネットワーク上で CAC パラメータを設定するには、次の準備作業を完了しておく必要があります。

- **config wlan disable wlan\_id** コマンドを入力して、WMMが有効になっているすべてのWLANを無効にします。
- **config 802.11 {a | b} disable network** コマンドを入力して、設定する無線ネットワークを無効にします。
- **save config** コマンドを入力して、新しい設定を保存します。
- **config 802.11 {a | b} cac voice acm enable** コマンドまたは **config 802.11 {a | b} cac video acm enable** コマンドを入力して、設定するネットワークの音声またはビデオCACを有効にします。

詳細な手順については、使用しているリリースの『*Cisco Wireless LAN Controller Configuration Guide*』の「Configuring Controller Settings」の章の「Configuring Voice and Video Parameters」の項を参照してください。

---

## コマンド履歴

リリース	変更内容
7.6	このコマンドは、リリース7.6以前のリリースで導入されました。

次に、802.11a ネットワークの 90 としてマルチキャスト直接メディア ストリームの最大試行回数の割合を設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11 cac media-stream multicast-direct max-retry-percent 90
```

---

## 関連コマンド

```
show cac voice stats
show cac voice summary
show cac video stats
show cac video summary
config 802.11 cac video tspec-inactivity-timeout
config 802.11 cac video max-bandwidth
config 802.11 cac video acm
config 802.11 cac video sip
config 802.11 cac video roam-bandwidth
config 802.11 cac load-based
config 802.11 cac defaults
config 802.11 cac multimedia
debug cac
```

## config 802.11 cac multimedia

802.11a および 802.11b ネットワークの CAC メディア音声およびビデオ品質パラメータを設定するには、**config 802.11 cac multimedia** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} cac multimedia max-bandwidth bandwidth**

構文の説明	<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
	<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
	<b>max-bandwidth</b>	802.11a または 802.11b/g ネットワークで音声およびビデオアプリケーション用に Wi-Fi Multimedia (WMM) クライアントに割り当てられる最大帯域幅の割合を設定します。
	<b>bandwidth</b>	802.11a または 802.11b/g ネットワークで音声およびビデオアプリケーション用に WMM クライアントに割り当てられる最大帯域幅の割合。クライアントが指定値に達すると、アクセスポイントはこの無線帯域での新しいコールを拒否します。範囲は 5 ~ 85% です。

**コマンド デフォルト** 802.11a または 802.11b/g ネットワークで音声およびビデオアプリケーション用に Wi-Fi Multimedia (WMM) クライアントに割り当てられるデフォルトの最大帯域幅は、85 % です。

**使用上のガイドライン** 802.11a または 802.11b/g ネットワークでのビデオアプリケーションに対して Call Admission Control (CAC) コマンドを実行するには、変更しようとしている WLAN に Wi-Fi Multimedia (WMM) プロトコルが設定され、また Quality of Service (QoS) のレベルが Gold にセットされている必要があります。

ネットワーク上で CAC パラメータを設定するには、次の準備作業を完了しておく必要があります。

- **config wlan disable wlan\_id** コマンドを入力して、WMM が有効になっているすべての WLAN を無効にします。
- **config 802.11 {a | b} disable network** コマンドを入力して、設定する無線ネットワークを無効にします。
- **save config** コマンドを入力して、新しい設定を保存します。
- **config 802.11 {a | b} cac voice acm enable** コマンドまたは **config 802.11 {a | b} cac video acm enable** コマンドを入力して、設定するネットワークの音声またはビデオ CAC を有効にします。

詳細な手順については、使用しているリリースの『*Cisco Wireless LAN Controller Configuration Guide*』の「Configuring Controller Settings」の章の「Configuring Voice and Video Parameters」の項を参照してください。

---

**コマンド履歴**

---

リリース	変更内容
------	------

---

7.6	このコマンドは、リリース7.6以前のリリースで導入されました。
-----	---------------------------------

---

次に、802.11a ネットワークで音声およびビデオ アプリケーション用に WMM クライアントに割り当てられる最大帯域幅の割合を設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11 cac multimedia max-bandwidth 80
```

---

**関連コマンド**

**show cac voice stats**  
**show cac voice summary**  
**show cac video stats**  
**show cac video summary**  
**config 802.11 cac video tspec-inactivity-timeout**  
**config 802.11 cac video max-bandwidth**  
**config 802.11 cac video acm**  
**config 802.11 cac video sip**  
**config 802.11 cac video roam-bandwidth**  
**config 802.11 cac load-based**  
**config 802.11 cac defaults**  
**debug cac**

## config 802.11 cac video roam-bandwidth

802.11a または 802.11b/g ネットワーク上での最大割り当て帯域幅のうち、ビデオクライアントのローミング用に予約する割合を設定するには、**config 802.11 cac video roam-bandwidth** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} cac video roam-bandwidth bandwidth**

構文の説明	<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
	<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
	<i>bandwidth</i>	5 ~ 85 % の帯域の割合値。

コマンド デフォルト 802.11a または 802.11b/g ネットワーク上での最大割り当て帯域幅のうちビデオクライアントのローミング用に予約されるデフォルトの割合は、0 % です。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

使用上のガイドライン コントローラは、指定された帯域幅をビデオクライアントのローミング用に最大割り当て帯域幅から予約します。



(注) このパラメータがゼロ (0) に設定されている場合、コントローラは、帯域割り当てが行われないものと想定して、すべての帯域幅の要求を許可します。

CAC コマンドを使用するには、変更を予定している WLAN を Wi-Fi Multimedia (WMM) プロトコルに対応するように設定し、Quality of Service (QoS) レベルを Platinum に設定する必要があります。

ネットワーク上で CAC パラメータを設定するには、次の準備作業を完了しておく必要があります。

- **config wlan disable wlan\_id** コマンドを入力して、WMM が有効になっているすべての WLAN を無効にします。
- **config 802.11 {a | b} disable network** コマンドを入力して、設定する無線ネットワークを無効にします。
- 次のコマンドを入力して、新しい設定を保存します。 **save config command.**
- **config 802.11 {a | b} cac voice acm enable** コマンドまたは **config 802.11 {a | b} cac video acm enable** コマンドを入力して、設定するネットワークの音声またはビデオ CAC を有効にします。

詳細な手順については、使用しているリリースの『*Cisco Wireless LAN Controller Configuration Guide*』の「Configuring Controller Settings」の章の「Configuring Voice and Video Parameters」の項を参照してください。

次に、選択した無線帯域でビデオクライアントのローミングに予約された最大割り当て帯域幅の割合を指定する例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11 cac video roam-bandwidth 10
```

---

#### 関連コマンド

**config 802.11 cac video tspec-inactivity-timeout**

**config 802.11 cac video max-bandwidth**

**config 802.11 cac video acm**

**config 802.11 cac video cac-method**

**config 802.11 cac video sip**

**config 802.11 cac video load-based**

## config 802.11 cac video sip

802.11a または 802.11b/g ネットワーク上でビデオアプリケーションを使用する非トラフィック仕様 (TSPEC) SIP クライアント用のビデオコールアドミッション制御 (CAC) を有効または無効にするには、**config 802.11 cac video sip** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} cac video sip {enable | disable}**

構文の説明		
	<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
	<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
	<b>enable</b>	802.11a または 802.11b/g ネットワークでビデオアプリケーションを使用している非 TSPEC SIP クライアント用のビデオ CAC をイネーブルにします。  非 TSPEC SIP クライアントのビデオ CAC をイネーブルにすると、Facetime コールおよびビデオコールなどのアプリケーションを使用できます。
	<b>disable</b>	802.11a または 802.11b/g ネットワークでビデオアプリケーションを使用している非 TSPEC SIP クライアント用のビデオ CAC をディセーブルにします。

コマンド デフォルト なし

使用上のガイドライン 802.11a または 802.11b/g ネットワークでのビデオアプリケーションに対して CAC コマンドを実行するには、変更しようとしている WLAN に Wi-Fi Multimedia (WMM) プロトコルが設定され、また Quality of Service (QoS) のレベルが Gold にセットされている必要があります。

ネットワーク上で CAC パラメータを設定するには、次の準備作業を完了しておく必要があります。

- **config wlan disable wlan\_id** コマンドを入力して、WMM が有効になっているすべての WLAN を無効にします。
- **config 802.11 {a | b} disable network** コマンドを入力して、設定する無線ネットワークを無効にします。
- 次のコマンドを入力して、新しい設定を保存します。 **save config command**.
- **config 802.11 {a | b} cac voice acm enable** コマンドまたは **config 802.11 {a | b} cac video acm enable** コマンドを入力して、設定するネットワークの音声またはビデオ CAC を有効にします。

詳細な手順については、使用しているリリースの『Cisco Wireless LAN Controller Configuration Guide』の「Configuring Controller Settings」の章の「Configuring Voice and Video Parameters」の項を参照してください。



- **config wlan call-snoop enable wlan\_id** コマンドを入力して、SIP クライアントが配置されている WLAN でのコール スヌーピングを有効にします。

次に、802.11a ネットワークでビデオ アプリケーションを使用している非 TSPEC SIP クライアント用のビデオ CAC を有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11 cac video sip enable
```

---

#### 関連コマンド

**config 802.11 cac video tspec-inactivity-timeout**

**config 802.11 cac video max-bandwidth**

**config 802.11 cac video acm**

**config 802.11 cac video cac-method**

**config 802.11 cac video load-based**

**config 802.11 cac video roam-bandwidth**

## config 802.11 cac video tspec-inactivity-timeout

アクセス ポイントから受信したコール アドミッション制御 (CAC) の Wi-Fi マルチメディア (WMM) トラフィック仕様 (TSPEC) の非アクティブタイムアウトを処理または無視するには、**config 802.11 cac video tspec-inactivity-timeout** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} cac video tspec-inactivity-timeout {enable | ignore}**

構文の説明	パラメータ	説明
	<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
	<b>ab</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
	<b>enable</b>	TSPEC 無活動タイムアウトメッセージを処理します。
	<b>ignore</b>	TSPEC 無活動タイムアウトメッセージを無視します。

**コマンド デフォルト** アクセス ポイントから受信した CAC の WMM TSPEC の非アクティブ タイムアウトはデフォルトでは無効 (無視される) になっています。

**使用上のガイドライン** CAC コマンドを使用するには、変更を予定している WLAN を Wi-Fi Multimedia (WMM) プロトコルに対応するように設定し、Quality of Service (QoS) レベルを Platinum に設定する必要があります。

ネットワーク上で CAC パラメータを設定するには、次の準備作業を完了しておく必要があります。

- **config wlan disable wlan\_id** コマンドを入力して、WMM が有効になっているすべての WLAN を無効にします。
- **config 802.11 {a | b} disable network** コマンドを入力して、設定する無線ネットワークを無効にします。
- 次のコマンドを入力して、新しい設定を保存します。 **save config command**.
- **config 802.11 {a | b} cac voice acm enable** コマンドまたは **config 802.11 {a | b} cac video acm enable** コマンドを入力して、設定するネットワークの音声またはビデオ CAC を有効にします。

詳細な手順については、使用しているリリースの『Cisco Wireless LAN Controller Configuration Guide』の「Configuring Controller Settings」の章の「Configuring Voice and Video Parameters」の項を参照してください。

次に、アクセス ポイントから受信した TSPEC 非アクティブ タイムアウトメッセージへの応答を処理する方法を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11a cac video tspec-inactivity-timeout enable
```

次に、アクセス ポイントから受信した TSPEC 非アクティブ タイムアウト メッセージへの応答を無視する方法を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11a cac video tspec-inactivity-timeout ignore
```

---

#### 関連コマンド

**config 802.11 cac video acm**

**config 802.11 cac video max-bandwidth**

**config 802.11 cac video roam-bandwidth**

## config 802.11 cac voice acm

802.11a または 802.11b/g ネットワークに対して帯域幅ベースの音声コールアドミッション制御 (CAC) を有効または無効にするには、**config 802.11 cac voice acm** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} cac voice acm {enable | disable}**

構文の説明		
	<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
	<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
	<b>enable</b>	帯域幅ベースの CAC をイネーブルにします。
	<b>disable</b>	帯域幅ベースの CAC をディセーブルにします。

**コマンド デフォルト** 802.11a または 802.11b/g ネットワーク ID の帯域幅ベースの音声 CAC はデフォルトでは無効になっています。

**使用上のガイドライン** CAC コマンドを使用するには、変更を予定している WLAN を Wi-Fi Multimedia (WMM) プロトコルに対応するように設定し、Quality of Service (QoS) レベルを Platinum に設定する必要があります。

ネットワーク上で CAC パラメータを設定するには、次の準備作業を完了しておく必要があります。

- **config wlan disable wlan\_id** コマンドを入力して、WMM が有効になっているすべての WLAN を無効にします。
- **config 802.11 {a | b} disable network** コマンドを入力して、設定する無線ネットワークを無効にします。
- 次のコマンドを入力して、新しい設定を保存します。 **save config command**。
- **config 802.11 {a | b} cac voice acm enable** コマンドまたは **config 802.11 {a | b} cac video acm enable** コマンドを入力して、設定するネットワークの音声またはビデオ CAC を有効にします。

詳細な手順については、使用しているリリースの『*Cisco Wireless LAN Controller Configuration Guide*』の「Configuring Controller Settings」の章の「Configuring Voice and Video Parameters」の項を参照してください。

次に、帯域幅ベースの CAC をイネーブルにする例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11c cac voice acm enable
```

次に、帯域幅ベースの CAC をディセーブルにする例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11b cac voice acm disable
```

---

**関連コマンド****config 802.11 cac video acm**

## config 802.11 cac voice max-bandwidth

802.11a または 802.11b/g ネットワーク上でクライアントに割り当てられる最大帯域幅のうち、音声アプリケーション用に使用する割合を設定するには、**config 802.11 cac voice max-bandwidth** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} cac voice max-bandwidth bandwidth**

構文の説明	<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
	<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
	<i>bandwidth</i>	5 ~ 85 % の帯域の割合値。
コマンド デフォルト	802.11a または 802.11b/g ネットワークで音声アプリケーション用にクライアントに割り当てられるデフォルトの最大帯域幅は、0 % です。	
使用上のガイドライン	<p>音声とビデオの最大無線周波数（RF）帯域幅が合計で 85 % を超えてはなりません。クライアントが指定値に達すると、このネットワーク上での新しいコールはアクセスポイントで拒否されます。</p> <p>CAC コマンドを使用するには、変更を予定している WLAN を Wi-Fi Multimedia（WMM）プロトコルに対応するように設定し、Quality of Service（QoS）レベルを Platinum に設定する必要があります。</p> <p>ネットワーク上で CAC パラメータを設定するには、次の準備作業を完了しておく必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>config wlan disable wlan_id</b> コマンドを入力して、WMM が有効になっているすべての WLAN を無効にします。</li> <li>• <b>config 802.11 {a   b} disable network</b> コマンドを入力して、設定する無線ネットワークを無効にします。</li> <li>• 次のコマンドを入力して、新しい設定を保存します。 <b>save config command.</b></li> <li>• <b>config 802.11 {a   b} cac voice acm enable</b> コマンドまたは <b>config 802.11 {a   b} cac video acm enable</b> コマンドを入力して、設定するネットワークの音声またはビデオ CAC を有効にします。</li> </ul> <p>詳細な手順については、使用しているリリースの『Cisco Wireless LAN Controller Configuration Guide』の「Configuring Controller Settings」の章の「Configuring Voice and Video Parameters」の項を参照してください。</p>	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、選択した無線帯域で音声アプリケーションに割り当てられる最大帯域幅の割合を指定する例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11a cac voice max-bandwidth 50
```

---

**関連コマンド**

**config 802.11 cac voice roam-bandwidth**  
**config 802.11 cac voice stream-size**  
**config 802.11 exp-bwreq**  
**config 802.11 tsm**  
**config wlan save**  
**show wlan**  
**show wlan summary**  
**config 802.11 cac voice tspec-inactivity-timeout**  
**config 802.11 cac voice load-based**  
**config 802.11 cac video acm**

## config 802.11 cac voice roam-bandwidth

802.11a または 802.11b/g ネットワーク上でのコールアドミッション制御（CAC）の最大割り当て帯域幅のうち、音声クライアントのローミング用に予約する割合を設定するには、**config 802.11 cac voice roam-bandwidth** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} cac voice roam-bandwidth bandwidth**

構文の説明	<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
	<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
	<i>bandwidth</i>	0 ~ 85 % の帯域の割合値。

**コマンド デフォルト** 802.11a または 802.11b/g ネットワーク上での CAC の最大割り当て帯域幅のうち音声クライアントのローミング用に予約されるデフォルトの割合は、85 % です。

**使用上のガイドライン** 音声とビデオの最大無線周波数（RF）帯域幅が合計で 85 % を超えてはなりません。コントローラは、指定された帯域幅を音声クライアントのローミング用に最大割り当て帯域幅から予約します。



(注) このパラメータがゼロ（0）に設定されている場合、コントローラは帯域幅を割り当てないものと想定して、すべての帯域幅の要求を許可します。

CAC コマンドを使用するには、変更を予定している WLAN を Wi-Fi Multimedia（WMM）プロトコルに対応するように設定し、Quality of Service（QoS）レベルを Platinum に設定する必要があります。

ネットワーク上で CAC パラメータを設定するには、次の準備作業を完了しておく必要があります。

- **config wlan disable wlan\_id** コマンドを入力して、WMM が有効になっているすべての WLAN を無効にします。
- **config 802.11 {a | b} disable network** コマンドを入力して、設定する無線ネットワークを無効にします。
- 次のコマンドを入力して、新しい設定を保存します。 **save config command.**
- **config 802.11 {a | b} cac voice acm enable** コマンドまたは **config 802.11 {a | b} cac video acm enable** コマンドを入力して、設定するネットワークの音声またはビデオ CAC を有効にします。

詳細な手順については、使用しているリリースの『Cisco Wireless LAN Controller Configuration Guide』の「Configuring Controller Settings」の章の「Configuring Voice and Video Parameters」の項を参照してください。



---

**コマンド履歴**

---

リリース	変更内容
------	------

---

7.6	このコマンドは、リリース7.6以前のリリースで導入されました。
-----	---------------------------------

---

次に、選択した無線帯域で音声クライアントのローミング用に予約された最大割り当て帯域幅の割合を指定する例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11 cac voice roam-bandwidth 10
```

---

**関連コマンド**

**config 802.11 cac voice acm**

**config 802.11 cac voice max-bandwidth**

**config 802.11 cac voice stream-size**

## config 802.11 cac voice tspec-inactivity-timeout

アクセスポイントから受信した Wi-Fi マルチメディア (WMM) トラフィック仕様 (TSPEC) の非アクティブタイムアウトを処理または無視するには、**config 802.11 cac voice tspec-inactivity-timeout** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} cac voice tspec-inactivity-timeout {enable | ignore}**

構文の説明		
	<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
	<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
	<b>enable</b>	TSPEC 無活動タイムアウトメッセージを処理します。
	<b>ignore</b>	TSPEC 無活動タイムアウトメッセージを無視します。

**コマンド デフォルト** アクセスポイントから受信した WMM TSPEC の非アクティブタイムアウトはデフォルトでは無効 (無視される) になっています。

**使用上のガイドライン** コールアドミッション制御 (CAC) コマンドでは、変更を予定している WLAN を Wi-Fi Multimedia (WMM) プロトコルに対応するように設定し、Quality of Service (QoS) レベルを Platinum に設定する必要があります。

ネットワーク上で CAC パラメータを設定するには、次の準備作業を完了しておく必要があります。

- **config wlan disable wlan\_id** コマンドを入力して、WMM が有効になっているすべての WLAN を無効にします。
- **config 802.11 {a | b} disable network** コマンドを入力して、設定する無線ネットワークを無効にします。
- **save config** コマンドを入力して、新しい設定を保存します。
- **config 802.11 {a | b} cac voice acm enable** コマンドまたは **config 802.11 {a | b} cac video acm enable** コマンドを入力して、設定するネットワークの音声またはビデオ CAC を有効にします。

詳細な手順については、使用しているリリースの『Cisco Wireless LAN Controller Configuration Guide』の「Configuring Controller Settings」の章の「Configuring Voice and Video Parameters」の項を参照してください。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、アクセス ポイントから受信した音声 TSPEC 非アクティブ タイムアウトメッセージを有効にする方法を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11 cac voice tspec-inactivity-timeout enable
```

---

**関連コマンド**

**config 802.11 cac voice load-based**  
**config 802.11 cac voice roam-bandwidth**  
**config 802.11 cac voice acm**  
**config 802.11 cac voice max-bandwidth**  
**config 802.11 cac voice stream-size**

## config 802.11 cac voice load-based

802.11a または 802.11b/g ネットワークに対して負荷ベースのコールアドミッション制御 (CAC) を有効または無効にするには、**config 802.11 cac voice load-based** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} cac voice load-based {enable | disable}**

構文の説明		
	<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
	<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
	<b>enable</b>	負荷ベースの CAC をイネーブルにします。
	<b>disable</b>	負荷ベースの CAC をディセーブルにします。

**コマンド デフォルト** 802.11a ネットワークまたは 802.11b/g ネットワークの負荷ベースの CAC はデフォルトでは無効になっています。

**使用上のガイドライン** CAC コマンドを使用するには、変更を予定している WLAN を Wi-Fi Multimedia (WMM) プロトコルに対応するように設定し、Quality of Service (QoS) レベルを Platinum に設定する必要があります。

ネットワーク上で CAC パラメータを設定するには、次の準備作業を完了しておく必要があります。

- **config wlan disable wlan\_id** コマンドを入力して、WMM が有効になっているすべての WLAN を無効にします。
- **config 802.11 {a | b} disable network** コマンドを入力して、設定する無線ネットワークを無効にします。
- 次のコマンドを入力して、新しい設定を保存します。 **save config command**。
- **config 802.11 {a | b} cac voice acm enable** コマンドまたは **config 802.11 {a | b} cac video acm enable** コマンドを入力して、設定するネットワークの音声またはビデオ CAC を有効にします。

詳細な手順については、使用しているリリースの『Cisco Wireless LAN Controller Configuration Guide』の「Configuring Controller Settings」の章の「Configuring Voice and Video Parameters」の項を参照してください。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、音声負荷ベースの CAC パラメータを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11a cac voice load-based enable
```

次に、音声負荷ベースの CAC パラメータを無効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11a cac voice load-based disable
```

---

**関連コマンド**

**config 802.11 cac voice tspec-inactivity-timeout**

**config 802.11 cac video max-bandwidth**

**config 802.11 cac video acm**

**config 802.11 cac voice stream-size**

## config 802.11 cac voice max-calls



(注) SIP コールスヌーピング機能が無効であるか、SIPベースのコールアドミッション制御 (CAC) の要件が満たされない場合は、**config 802.11 cac voice max-calls** コマンドを使用しないでください。

無線でサポートされる音声コールの最大数を設定するには、**config 802.11 cac voice max-calls** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} cac voice max-calls number**

構文の説明	a	802.11a ネットワークを指定します。
	b	802.11b/g ネットワークを指定します。
	number	無線ごとに許可するコールの数。

**コマンド デフォルト** 無線でサポートされる音声コールのデフォルトの最大数は0です。これは、コール数の最大制限チェックがないことを意味します。

**使用上のガイドライン** CAC コマンドを使用するには、変更を予定している WLAN を Wi-Fi Multimedia (WMM) プロトコルに対応するように設定し、Quality of Service (QoS) レベルを Platinum に設定する必要があります。

ネットワーク上で CAC パラメータを設定するには、次の準備作業を完了しておく必要があります。

- **config wlan disable wlan\_id** コマンドを入力して、WMM が有効になっているすべての WLAN を無効にします。
- **config 802.11 {a | b} disable network** コマンドを入力して、設定する無線ネットワークを無効にします。
- 次のコマンドを入力して、新しい設定を保存します。 **save config command**.
- **config 802.11 {a | b} cac voice acm enable** コマンドまたは **config 802.11 {a | b} cac video acm enable** コマンドを入力して、設定するネットワークの音声またはビデオ CAC を有効にします。

詳細な手順については、使用しているリリースの『Cisco Wireless LAN Controller Configuration Guide』の「Configuring Controller Settings」の章の「Configuring Voice and Video Parameters」の項を参照してください。

---

**コマンド履歴**

---

リリース	変更内容
------	------

---

7.6	このコマンドは、リリース7.6以前のリリースで導入されました。
-----	---------------------------------

---

次に、無線でサポートされる音声コールの最大数を設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11 cac voice max-calls 10
```

---

**関連コマンド**

**config 802.11 cac voice roam-bandwidth**  
**config 802.11 cac voice stream-size**  
**config 802.11 exp-bwreq**  
**config 802.11 cac voice tspec-inactivity-timeout**  
**config 802.11 cac voice load-based**  
**config 802.11 cac video acm**

## config 802.11 cac voice sip bandwidth



(注) SIP 帯域幅とサンプリング間隔は、SIP ベースのコール アドミッション制御 (CAC) で、コール帯域幅あたりの計算に使用されます。

802.11a または 802.11b/g ネットワークにコールごとに必要な帯域幅を設定するには、**config 802.11 cac voice sip bandwidth** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} cac voice sip bandwidth *bw\_kbps* sample-interval *number\_msecs***

### 構文の説明

<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
<i>bw_kbps</i>	帯域幅 (kbps 単位)。
<b>sample-interval</b>	SIP コーデックの packets 化間隔を指定します。
<i>number_msecs</i>	ミリ秒単位の packets 化のサンプリング間隔。 SIP コーデックのサンプリング間隔は 20 秒です。

### コマンド デフォルト

なし

### 使用上のガイドライン

CAC コマンドを使用するには、変更を予定している WLAN を Wi-Fi Multimedia (WMM) プロトコルに対応するように設定し、Quality of Service (QoS) レベルを Platinum に設定する必要があります。

ネットワーク上で CAC パラメータを設定するには、次の準備作業を完了しておく必要があります。

- **config wlan disable *wlan\_id*** コマンドを入力して、WMM が有効になっているすべての WLAN を無効にします。
- **config 802.11 {a | b} disable** ネットワーク コマンドを入力して、設定する無線ネットワークを無効にします。
- **save config** コマンドを入力して、新しい設定を保存します。
- **config 802.11 {a | b} cac voice acm enable** コマンドまたは **config 802.11 {a | b} cac video acm enable** コマンドを入力して、設定するネットワークの音声またはビデオ CAC を有効にします。



詳細な手順については、使用しているリリースの『*Cisco Wireless LAN Controller Configuration Guide*』の「Configuring Controller Settings」の章の「Configuring Voice and Video Parameters」の項を参照してください。

---

**コマンド履歴**

---

リリース	変更内容
------	------

---

7.6	このコマンドは、リリース7.6以前のリリースで導入されました。
-----	---------------------------------

---

次に、SIP コーデックの帯域幅と音声パケット化間隔を設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11 cac voice sip bandwidth 10 sample-interval 40
```

---

**関連コマンド**

**config 802.11 cac voice acm**

**config 802.11 cac voice load-based**

**config 802.11 cac voice max-bandwidth**

**config 802.11 cac voice roam-bandwidth**

**config 802.11 cac voice tspec-inactivity-timeout**

**config 802.11 exp-bwreq**

## config 802.11 cac voice sip codec

Call Admission Control (CAC) コーデック名とサンプル間隔をパラメータとして設定し、802.11a または 802.11b/g ネットワークに対するコールごとに必要な帯域幅を計算するには、**config 802.11 cac voice sip codec** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} cac voice sip codec {g711 | g729} sample-interval number\_msecs**

構文の説明		
	<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
	<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
	<b>g711</b>	SIP G711 コーデックに CAC パラメータを指定します。
	<b>g729</b>	SIP G729 コーデックに CAC パラメータを指定します。
	<b>sample-interval</b>	SIP コーデックの packets 間隔を指定します。
	<b>number_msecs</b>	ミリ秒単位の packets 間隔。SIP コーデック値のサンプリング間隔は 20 秒です。

**コマンド デフォルト** デフォルトの CAC コーデック パラメータは g711 です。

**使用上のガイドライン** CAC コマンドを使用するには、変更を予定している WLAN を Wi-Fi Multimedia (WMM) プロトコルに対応するように設定し、Quality of Service (QoS) レベルを Platinum に設定する必要があります。

ネットワーク上で CAC パラメータを設定するには、次の準備作業を完了しておく必要があります。

- **config wlan disable wlan\_id** コマンドを入力して、WMM が有効になっているすべての WLAN を無効にします。
- **config 802.11 {a | b} disable** ネットワーク コマンドを入力して、設定する無線ネットワークを無効にします。
- **save config** コマンドを入力して、新しい設定を保存します。
- **config 802.11 {a | b} cac voice acm enable** コマンドまたは **config 802.11 {a | b} cac video acm enable** コマンドを入力して、設定するネットワークの音声またはビデオ CAC を有効にします。

詳細な手順については、使用しているリリースの『Cisco Wireless LAN Controller Configuration Guide』の「Configuring Controller Settings」の章の「Configuring Voice and Video Parameters」の項を参照してください。

---

**コマンド履歴**

---

リリース	変更内容
------	------

---

7.6	このコマンドは、リリース7.6以前のリリースで導入されました。
-----	---------------------------------

---

次に、SIP G711 コーデックのパラメータとしてコーデック名とサンプリング間隔を設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11a cac voice sip codec g711 sample-interval 40
```

次に、SIP G729 コーデックのパラメータとしてコーデック名とサンプリング間隔を設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11a cac voice sip codec g729 sample-interval 40
```

---

**関連コマンド**

**config 802.11 cac voice acm**

**config 802.11 cac voice load-based**

**config 802.11 cac voice max-bandwidth**

**config 802.11 cac voice roam-bandwidth**

**config 802.11 cac voice tspec-inactivity-timeout**

**config 802.11 exp-bwreq**

## config 802.11 cac voice stream-size

802.11a または 802.11b/g ネットワーク用に指定されたデータ レートで集約音声 Wi-Fi マルチメディア (WMM) のトラフィック仕様 (TSPEC) ストリーム数を設定するには、**config 802.11 cac voice stream-size** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} cac voice stream-size stream\_size number mean\_datarate max-streams mean\_datarate**

### 構文の説明

<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
<b>stream-size</b>	ストリームの最大データ レートを設定します。
<i>stream_size</i>	ストリーム サイズの範囲は 84000 ~ 92100 です。
<i>number</i>	音声ストリームの数 (1 ~ 5)。
<b>mean_datarate</b>	平均データ レートを設定します。
<b>max-streams</b>	音声ストリームの平均データ レートを設定します。
<i>mean_datarate</i>	音声ストリームの平均データ レート (84 ~ 91.2 Kbps)。

### コマンド デフォルト

デフォルトのストリーム数は 2 で、ストリームの平均データ レートは 84 Kbps です。

### 使用上のガイドライン

コール アドミッション制御 (CAC) コマンドでは、変更を予定している WLAN を Wi-Fi Multimedia (WMM) プロトコルに対応するように設定し、Quality of Service (QoS) レベルを Platinum に設定する必要があります。

ネットワーク上で CAC パラメータを設定するには、次の準備作業を完了しておく必要があります。

- **config wlan disable wlan\_id** コマンドを入力して、WMM が有効になっているすべての WLAN を無効にします。
- **config 802.11 {a | b} disable** ネットワーク コマンドを入力して、設定する無線ネットワーク を無効にします。
- **save config** コマンドを入力して、新しい設定を保存します。
- **config 802.11 {a | b} cac voice acm enable** コマンドまたは **config 802.11 {a | b} cac video acm enable** コマンドを入力して、設定するネットワークの音声またはビデオ CAC を有効にします。

詳細な手順については、使用しているリリースの『*Cisco Wireless LAN Controller Configuration Guide*』の「Configuring Controller Settings」の章の「Configuring Voice and Video Parameters」の項を参照してください。

---

**コマンド履歴**

---

リリース	変更内容
------	------

---

7.6	このコマンドは、リリース7.6以前のリリースで導入されました。
-----	---------------------------------

---

次に、ストリームサイズ5および平均データレート85000 kbpsの集約音声トラフィック仕様のストリームを設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11 cac voice stream-size 5 max-streams size 85
```

---

**関連コマンド**

**config 802.11 cac voice acm**  
**config 802.11 cac voice load-based**  
**config 802.11 cac voice max-bandwidth**  
**config 802.11 cac voice roam-bandwidth**  
**config 802.11 cac voice tspec-inactivity-timeout**  
**config 802.11 exp-bwreq**

## config 802.11 cleanair

802.11a または 802.11b/g ネットワークに対して CleanAir を有効または無効にするには、**config 802.11 cleanair** コマンドを使用します。

```
config 802.11 {a | b} cleanair {alarm {air-quality {disable | enable | threshold alarm_threshold} | device {disable device_type | enable device_type | reporting {disable | enable} | unclassified {disable | enable | threshold alarm_threshold}} | device {disable device_type | enable device_type | reporting {disable | enable} | disable {network | cisco_ap} | enable {network | cisco_ap}}
```

### 構文の説明

<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
<b>alarm</b>	5 GHz cleanair アラームを設定します。
<b>air-quality</b>	5 GHz の電波品質のアラームを設定します。
<b>enable</b>	CleanAir の設定を有効にします。
<b>disable</b>	CleanAir の設定を無効にします。
<b>threshold</b>	5 GHz 電波品質のアラームしきい値を設定します。
<i>alarm_threshold</i>	電波品質のアラームしきい値 (1=電波品質が悪い、100=電波品質がよい)。
<b>device</b>	5 GHz の CleanAir 干渉デバイスのアラームを設定します。

<i>device_type</i>	<p>デバイスタイプ。デバイスタイプは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 802.11-nonstd : 非標準の Wi-Fi チャンネルを使用するデバイス。</li> <li>• 802.11-inv : スペクトラム反転 Wi-Fi 信号を使用するデバイス。</li> <li>• superag : 802.11 SuperAG デバイス。</li> <li>• all : すべての干渉デバイス タイプ。</li> <li>• cont-tx : 連続トランスミッタ。</li> <li>• dect-like : Digital Enhanced Cordless Communication (DECT) デジタル コードレス電話。</li> <li>• tdd-tx : TTY トランスミッタ。</li> <li>• jammer : 電波妨害装置。</li> <li>• canopy : Canopy デバイス。</li> <li>• video : ビデオ カメラ。</li> <li>• wimax-mobile : WiMax モバイル。</li> <li>• wimax-fixed : WiMax 固定。</li> </ul>				
<b>reporting</b>	5 GHz の CleanAir 干渉デバイスのアラーム レポートを設定します。				
<b>unclassified</b>	分類されていないカテゴリの重大度を越えた場合の 5 GHz 電波品質のアラームを設定します。				
<i>network</i>	5 GHz Cisco AP。				
<i>cisco_ap</i>	このコマンドを適用するアクセス ポイントの名前。				
<b>コマンド デフォルト</b>	802.11 a ネットワークまたは 802.11 b/g ネットワークの CleanAir 設定は、デフォルトでは無効になっています。				
<b>コマンド履歴</b>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7.6</td> <td>このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。
リリース	変更内容				
7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。				

次に、アクセス ポイント ap\_24 の CleanAir 設定を有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11a cleanair enable ap_24
```



## config 802.11 cleanair device

CleanAir 干渉デバイスのタイプを設定するには、**config 802.11 cleanair device** コマンドを使用します。

```
config 802.11 {a | b} cleanair device {enable | disable | reporting {enable | disable}}
device_type
```

構文の説明		
	<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
	<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
	<b>enable</b>	干渉デバイス タイプに対して CleanAir レポートを有効にします。
	<b>disable</b>	干渉デバイス タイプに対して CleanAir レポートを無効にします。
	<b>reporting</b>	CleanAir 干渉デバイスのレポートを設定します。
	<b>enable</b>	5 GHz Cleanair の干渉デバイスのレポートを有効にします。
	<b>disable</b>	5 GHz Cleanair の干渉デバイスのレポートを無効にします。

<i>device_type</i>	<p>干渉デバイスのタイプ。デバイス タイプは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 802.11-nonstd : 非標準の WiFi チャンネルを使用するデバイス。</li> <li>• 802.11-inv : スペクトラム反転 WiFi 信号を使用するデバイス。</li> <li>• superag : 802.11 SuperAG デバイス。</li> <li>• all : すべての干渉デバイス タイプ。</li> <li>• cont-tx : 連続トランスミッタ。</li> <li>• dect-like : Digital Enhanced Cordless Communication (DECT) デジタル コードレス電話。</li> <li>• tdd-tx : TTY トランスミッタ。</li> <li>• jammer : 電波妨害装置。</li> <li>• canopy : Canopy デバイス。</li> <li>• video : ビデオ カメラ。</li> <li>• wimax-mobile : WiMax モバイル。</li> <li>• wimax-fixed : WiMax 固定。</li> </ul>
--------------------	--

**コマンド デフォルト**

干渉デバイス タイプの CleanAir レポートの設定は、デフォルトでは無効になっています。

**コマンド履歴**

リリース	変更内容
7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、デバイス タイプ jammer の CleanAir レポートを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11a cleanair device enable jammer
```

次に、デバイス タイプ video の CleanAir レポートを無効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11a cleanair device disable video
```

次に、CleanAir 干渉デバイスのレポートを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11a cleanair device reporting enable
```

## config 802.11 cleanair alarm

電波品質アラームのトリガーを設定するには、**config 802.11 cleanair alarm** コマンドを使用します。

```
config 802.11 {a | b} cleanair alarm {air-quality {disable | enable | threshold alarm_threshold
} | device {disable device_type | enable device_type | reporting {disable | enable } |
unclassified {disable | enable | threshold alarm_threshold}}
```

### 構文の説明

<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
<b>air-quality</b>	5 GHz の電波品質のアラームを設定します。
<b>disable</b>	5 GHz 電波品質アラームを無効にします。
<b>enable</b>	5 GHz 電波品質のアラームを有効にします。
<b>threshold</b>	5 GHz 電波品質のアラームしきい値を設定します。
<i>alarm_threshold</i>	電波品質のアラームしきい値（1=電波品質が悪い、100=電波品質がよい）。
<b>device</b>	5 GHz の CleanAir 干渉デバイスのアラームを設定します。
<b>all</b>	すべてのデバイスタイプを一度に設定します。
<b>reporting</b>	5 GHz の CleanAir 干渉デバイスのアラームレポートを設定します。
<b>unclassified</b>	分類されていないカテゴリの重大度を越えた場合の 5 GHz 電波品質のアラームを設定します。

<i>device_type</i>	<p>デバイスタイプ。デバイスタイプは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 802.11-nonstd : 非標準の Wi-Fi チャンネルを使用するデバイス。</li> <li>• 802.11-inv : スペクトラム反転 Wi-Fi 信号を使用するデバイス。</li> <li>• superag : 802.11 SuperAG デバイス。</li> <li>• all : すべての干渉デバイス タイプ。</li> <li>• cont-tx : 連続トランスミッタ。</li> <li>• dect-like : Digital Enhanced Cordless Communication (DECT) デジタルコードレス電話。</li> <li>• tdd-tx : TTY トランスミッタ。</li> <li>• jammer : 電波妨害装置。</li> <li>• canopy : Canopy デバイス。</li> <li>• video : ビデオカメラ。</li> <li>• wimax-mobile : WiMax モバイル。</li> <li>• wimax-fixed : WiMax 固定。</li> </ul>
--------------------	--

コマンド デフォルト 5 GHz 電波品質アラームの設定は、デフォルトでは有効になっています。

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
7.6	このコマンドは、リリース7.6以前のリリースで導入されました。

次に、電波品質を監視する CleanAir アラームを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11a cleanair alarm air-quality enable
```

次に、デバイス タイプ video の CleanAir アラームを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11a cleanair alarm device enable video
```

次に、CleanAir 干渉デバイスのアラーム レポートを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11a cleanair alarm device reporting enable
```

## config 802.11 disable

802.11 ネットワーク全体または個々のシスコの無線に対して無線伝送を無効にするには、**config 802.11 disable** コマンドを使用します。

**config 802.11 { a | b } disable { network | cisco\_ap }**

構文の説明	a	b	network	cisco_ap
	スロット 1 の 802.11a 無線とスロット 2 の 802.11ac 無線を設定します。	802.11b/g ネットワークを指定します。	802.11a ネットワーク全体で伝送を無効にします。	個々の Cisco Lightweight アクセス ポイントの無線。

**コマンドデフォルト** デフォルトでは、ネットワーク全体で伝送が有効化されています。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

**使用上のガイドライン**

- さまざまな config 802.11 コマンドを使用する前に、次のコマンドを使用してネットワークを無効にする必要があります。
- このコマンドは、CLI インターフェイスがアクティブなときはいつでも使用できます。

次に、802.11a ネットワーク全体を無効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11a disable network
```

次に、アクセス ポイント AP01 の 802.11b 伝送を無効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11b disable AP01
```

## config 802.11 dtpc

802.11 ネットワークの送信電力の動的制御（DTPC）設定を有効または無効にするには、**config 802.11 dtpc** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} dtpc {enable | disable}**

構文の説明		
	<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
	<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
	<b>enable</b>	このコマンドのサポートをイネーブルにします。
	<b>disable</b>	このコマンドのサポートをディセーブルにします。

**コマンド デフォルト** 802.11 ネットワークの DTPC 設定は、デフォルトでは有効になっています。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	<b>7.6</b>	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、802.11a ネットワークの DTPC を無効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11a dtpc disable
```

## config 802.11 enable

802.11 ネットワーク全体または個々のシスコの無線に対して無線伝送を有効にするには、**config 802.11 enable** コマンドを使用します。

```
config 802.11 {a | b} enable {network | cisco_ap }
```

### 構文の説明

<b>a</b>	スロット 1 の 802.11a 無線とスロット 2 の 802.11ac 無線を設定します。
<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
<b>network</b>	802.11a ネットワーク全体で伝送を無効にします。
<i>cisco_ap</i>	個々の Cisco Lightweight アクセス ポイントの無線。

### コマンドデフォルト

デフォルトでは、ネットワーク全体で伝送が有効化されています。

### 使用上のガイドライン

802.11 を設定する場合は、このコマンドを **config 802.11 disable** コマンドとともに使用します。このコマンドは、CLI インターフェイスがアクティブなときはいつでも使用できます。

### コマンド履歴

リリース	変更内容
7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、802.11a ネットワーク全体の無線伝送を有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11a enable network
```

次に、802.11b ネットワークの API の無線伝送を有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11b enable API
```

### 関連コマンド

```
show sysinfo show 802.11a
config wlan radio
config 802.11a disable
config 802.11b disable
config 802.11b enable
config 802.11b 11gSupport enable
```

config 802.11 enable

config 802.11b 11gSupport disable



## config 802.11 exp-bwreq

802.11 無線の Cisco Client eXtension (CCX) v5 Expedited Bandwidth Request 機能を有効または無効にするには、**config 802.11 exp-bwreq** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} exp-bwreq {enable | disable}**

構文の説明	a	802.11a ネットワークを指定します。
	b	802.11b/g ネットワークを指定します。
	enable	Expedited Bandwidth Request 機能を有効にします。
	disable	Expedited Bandwidth Request 機能を無効にします。

**コマンド デフォルト** Expedited Bandwidth Request 機能はデフォルトでは無効になっています。

**使用上のガイドライン** このコマンドが有効になっている場合、コントローラは結合されているすべてのアクセスポイントでこの機能を設定します。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、CCX Expedited Bandwidth 設定を有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11a exp-bwreq enable
Cannot change Exp Bw Req mode while 802.11a network is operational.
```

次に、CCX Expedited Bandwidth 設定を無効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11a exp-bwreq disable
```

**関連コマンド**

- show 802.11a**
- show ap stats 802.11a**

## config 802.11 fragmentation

フラグメンテーションのしきい値を 802.11 ネットワークに設定するには、**config 802.11 fragmentation** コマンドを使用します。

**config 802.11 { a | b } fragmentation threshold**



(注) このコマンドは、**config 802.11 disable** コマンドでネットワークを無効にしてから使用します。

### 構文の説明

<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
<i>threshold</i>	256 ~ 2346 バイトの数（両端の値を含む）。

### コマンド デフォルト

なし。

### コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

7.6 このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、802.11a ネットワークのフラグメンテーションしきい値を 6500 バイトのしきい値数で設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11a fragmentation 6500
```

### 関連コマンド

**config 802.11b fragmentation**

**show 802.11b**

**show ap auto-rtf**

## config 802.11 l2roam rf-params

802.11a または 802.11b/g レイヤ 2 クライアント ローミング パラメータを設定するには、**config 802.11 l2roam rf-params** コマンドを使用します。

```
config 802.11 { a | b } l2roam rf-params { default | custom min_rssi roam_hyst scan_thresh
trans_time }
```

構文の説明	<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
	<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
	<b>default</b>	レイヤ 2 クライアントのローミング RF パラメータをデフォルト値に戻します。
	<b>custom</b>	レイヤ 2 クライアントのカスタム ローミング RF パラメータを設定します。
	<i>min_rssi</i>	クライアントをアクセス ポイントに関連付けるために必要な最小の受信信号強度インジケータ (RSSI)。クライアントの平均の受信信号の強度がこのしきい値より低い場合、通常、信頼できる通信はできません。したがって、最小の RSSI 値に達する前に、クライアントはより強い信号のある別のアクセス ポイントをすでに見つけてローミングしている必要があります。有効な範囲は -80 ~ -90 dBm で、デフォルト値は -85 dBm です。
	<i>roam_hyst</i>	クライアントがローミングするために、周辺のアクセス ポイントの信号に必要な強度。このパラメータは、クライアントが 2 つのアクセス ポイント間のボーダー近くに物理的に存在している場合に、アクセスポイント間のローミングの量を減らすことを意図しています。有効な範囲は 2 ~ 4 dB で、デフォルト値は 2 dB です。

---

*scan\_thresh*

許容可能な最小RSSI。この値を下回ると、クライアントはより適切なアクセスポイントをローミングする必要があります。RSSIが指定された値より低い場合、クライアントは指定遷移時間内により強い信号のあるアクセスポイントへローミングできる必要があります。このパラメータはまた、クライアントがアクティブまたはパッシブスキャンで費やす時間を最小限に抑えるための節電方法も提供します。たとえば、クライアントはRSSIがしきい値よりも高いときにはゆっくりとスキャンし、しきい値よりも低いときにはより速くスキャンすることができます。有効な範囲は -70 ~ -77 dBm で、デフォルト値は -72 dBm です。

---

*trans\_time*

クライアントのアソシエートされたアクセスポイントからのRSSIがスキャンのしきい値を下回った場合に、クライアントがローミングに適したネイバーアクセスポイントの検出と、ローミングの完了にかけられる最大許容時間。有効な範囲は 1 ~ 10 秒で、デフォルト値は 5 秒です。

(注) 屋外メッシュ環境でのクライアントの高速ローミングに利用する場合には、遷移時間を 1 秒に設定することをお勧めします。

---

コマンド デフォルト

デフォルトの最小RSSIは -85 dBm です。隣接するアクセスポイントのデフォルトの信号強度は 2 dB です。デフォルトのスキャンしきい値は -72 dBm です。クライアントが適切な隣接アクセスポイントを検出してローミングし、ローミングを完了するために許容されるデフォルトの時間は 5 秒です。

---

使用上のガイドライン

屋外メッシュ環境でのクライアントの高速ローミングに利用する場合には、*trans\_time* を 1 秒に設定することをお勧めします。

---

コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

7.6 このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、802.11a ネットワークにカスタム レイヤ 2 クライアント ローミング パラメータを設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11 l2roam rf-params custom -80 2 -70 7
```

---

関連コマンド

**show advanced 802.11 l2roam**  
**show l2tp**

## config 802.11 max-clients

アクセスポイントごとのクライアントの最大数を設定するには、**config 802.11 max-clients** コマンドを使用します。

**config 802.11 { a | b } max-clients max-clients**

構文の説明	<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
	<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
	<b>max-clients</b>	アクセス ポイントごとのクライアント接続の最大数を設定します。
	<i>max-clients</i>	アクセス ポイントごとのクライアント接続の最大数。指定できる範囲は 1 ~ 200 です。

コマンド デフォルト なし

コマンド履歴 リリース 変更内容  
ス

**7.6** このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、クライアントの最大数を 22 に設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11 max-clients 22
```

関連コマンド **show ap config 802.11a**  
**config 802.11b rate**

## config 802.11 media-stream multicast-direct

802.11 ネットワークのメディア ストリーム マルチキャスト ダイレクトパラメータを設定するには、**config 802.11 media-stream multicast-direct** コマンドを使用します。

```
config 802.11 {a | b} media-stream multicast-direct {admission-besteffort {enable | disable}
| {client-maximum | radio-maximum} {value | no-limit} | enable | disable}
```

構文の説明		
	<b>802.11a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
	<b>802.11b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
	<b>admission-besteffort</b>	ベストエフォートキューにメディア ストリームを許可します。
	<b>enable</b>	2.4 GHz または 5 GHz 帯域でマルチキャスト ダイレクトを有効にします。
	<b>disable</b>	2.4 GHz または 5 GHz 帯域でマルチキャスト ダイレクトを無効にします。
	<b>client-maximum</b>	クライアントで許可されるストリームの最大数を指定します。
	<b>radio-maximum</b>	2.4 GHz または 5 GHz 帯域で許可されるストリームの最大数を指定します。
	<i>value</i>	クライアント、または 2.4 GHz または 5 GHz 帯域で許可されるストリームの数 (1~20)。
	<b>no-limit</b>	クライアント、または 2.4 GHz または 5 GHz 帯域で許可されるストリームの数を無制限に指定します。

コマンドデフォルト なし

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

**使用上のガイドライン** 802.11 ネットワークのメディア ストリーム マルチキャスト ダイレクトパラメータを設定する前に、ネットワークが非動作であることを確認します。

次に、802.11a ネットワークでメディア ストリーム マルチキャスト ダイレクト設定を有効にする例を示します。

```
> config 802.11a media-stream multicast-direct enable
```

次に、ベストエフォートキューにメディアストリームを許可する例を示します。

```
> config 802.11a media-stream multicast-direct admission-besteffort enable
```

次に、クライアントで許可される最大ストリーム数を設定する例を示します。

```
> config 802.11a media-stream multicast-direct client-maximum 10
```

---

#### 関連コマンド

```
config 802.11 media-stream video-redirect
```

```
show 802.11a media-stream name
```

```
show media-stream group summary
```

```
show media-stream group detail
```



## config 802.11 media-stream video-redirect

802.11 ネットワークのメディア ストリーム ビデオリダイレクトを設定するには、**config 802.11 media-stream video-redirect** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} media-stream video-redirect {enable | disable}**

構文の説明	<b>802.11a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
	<b>802.11b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
	<b>enable</b>	トラフィック リダイレクションを有効にします。
	<b>disable</b>	トラフィック リダイレクションを無効にします。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン 802.11 ネットワークのメディア ストリーム ビデオリダイレクションを設定する前に、ネットワークが非動作であることを確認します。

次に、802.11a ネットワークでメディア ストリーム トラフィック リダイレクションを有効にする例を示します。

```
> config 802.11a media-stream video-redirect enable
```

関連コマンド

**config 802.11 media-stream multicast-redirect**

**show 802.11a media-stream name**

**show media-stream group summary**

**show media-stream group detail**

## config 802.11 multicast data-rate

最小マルチキャスト データ レートを設定するには、**config 802.11 multicast data-rate** コマンドを使用します。

**config 802.11 { a | b } multicast data-rate data\_rate [ ap ap\_name | default ]**

構文の説明		
<i>data_rate</i>		最小のマルチキャスト データ レート。オプションは 6、9、12、18、24、36、48、54 です。AP が、マルチキャストに割り当てられたバッファの数を動的に調整するように指定するには、0 を入力します。
<i>ap_name</i>		このデータ レートの特定の AP 無線。
<b>default</b>		このデータ レートですべての AP 無線を設定します。

**コマンド デフォルト** デフォルトの 0 を設定すると、設定がディセーブルになります。マルチキャストレートは最も低い必須データ レートおよびユニキャスト クライアント データ レートになります。

**使用上のガイドライン** AP Name または **default** キーワードなしでデータ レートを設定すると、新しい値にすべての AP がリセットされ、この新しいデータ レート値でコントローラのグローバルデフォルトが更新されます。**default** キーワードでデータ レートを設定すると、コントローラのグローバルデフォルト値のみが更新され、すでにコントローラを接続している AP の値はリセットされません。新しいデータ レート値を設定した後にコントローラに接続する AP は、新しいデータ レート値を受け取ります。

コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、最小のマルチキャスト データ レートを設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11 multicast data-rate 12
```

## config 802.11 rate

802.11 ネットワークの必須およびサポート対象動作データ レートを設定するには、**config 802.11 rate** コマンドを使用します。

**config 802.11** { **a** | **b** } **rate** { **disabled** | **mandatory** | **supported** } *rate*

構文の説明		
	<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
	<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
	<b>disabled</b>	特定のデータ レートをディセーブルにします。
	<b>mandatory</b>	ネットワークを使用するためにクライアントがデータ レートをサポートするように指定します。
	<b>supported</b>	ネットワークを使用するためにデータ レートをサポートする関連クライアントを許可するように指定します。
	<i>rate</i>	6、9、12、18、24、36、48、または 54 Mbps のレート値。

コマンド デフォルト なし

**使用上のガイドライン** このコマンドで設定したデータ レートは、クライアントと Cisco ワイヤレス LAN コントローラとの間でネゴシエートされます。データ レートが **mandatory** に設定されている場合、クライアントはネットワークを使用するためにこのデータ レートをサポートする必要があります。Cisco ワイヤレス LAN コントローラでデータ レートが **supported** に設定されている場合、アソシエートされているその他のクライアントのうち、このレートをサポートするクライアントも、このレートを使用して Cisco Lightweight アクセスポイントと通信できます。アソシエートするために、クライアントが **supported** とマークされているすべてのレートを使用できる必要はありません。

コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

7.6 このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、12 Mbps の必須レートで 802.11b 伝送を設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11b rate mandatory 12
```

関連コマンド

**show ap config 802.11a**

config 802.11b rate

## config 802.11 rssi-check

802.11 RSSI Low Check 機能を設定するには、**config 802.11 rssi-check** コマンドを使用します。

```
config 802.11 {a|b} rssi-check {enable|disable}
```

構文の説明	<b>rssi-check</b> RSSI Low Check 機能を設定します。
	<b>enable</b> RSSI Low Check 機能を有効にします。
	<b>disable</b> RSSI Low Check 機能を無効にします。
コマンドデフォルト	なし
コマンド履歴	リリース 変更内容
	7.5 このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	

## config 802.11 rssi-threshold

802.11 RSSI Low Check しきい値を設定するには、**config 802.11 rssi-threshold** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a|b} rssi-threshold value-in-dBm**

### 構文の説明

**rssi-threshold** RSSI Low Check しきい値を設定します。

**value-in-dBm** RSSI しきい値 (dBm 単位)。デフォルト値は -80 dBm です。

### コマンド デフォルト

RSSI Low Check しきい値のデフォルト値は -80 dBm です。

### コマンド履歴

リリー 変更内容  
ス

7.5 このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

次に、802.11a ネットワークの RSSI しきい値を -70 dBm に設定する例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11a rssi-threshold -70
```

## config 802.11 SI

802.11a ネットワークまたは 802.11b/g ネットワークのすべてのシステムインテリジェンス (SI) 対応 AP または一部の SI 対応 AP で SI を設定するには、**config 802.11 si** コマンドを使用します。



(注) AP の名前のサフィックスに \$ がある場合は、その AP がスペクトルインテリジェンス機能をサポートしていることを示しています。

**config 802.11** {a | b} **si** {enable | disable} {network | ap-name}

### 構文の説明

<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
<b>enable</b>	5 GHz QCA スペクトラムインテリジェンスを有効にします。
<b>disable</b>	5 GHz QCA スペクトラムインテリジェンスを無効にします。
<b>network</b>	すべての 5 GHz の Cisco AP を設定します。
<i>cisco_ap</i>	このコマンドを適用するアクセス ポイントの名前。

### コマンドデフォルト

802.11 a ネットワークまたは 802.11 b/g ネットワークの SI 設定は、デフォルトでは無効になっています。

### コマンド履歴

リリース	変更内容
8.6	このコマンドが導入されました。

次に、ネットワーク内のすべての対応 AP で SI 設定を有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11a si enable network
```

## config 802.11 tsm

802.11a または 802.11b/g ネットワークに対するビデオ トラフィック ストリーム メトリック (TSM) オプションを有効または無効にするには、**config 802.11 tsm** コマンドを使用します。

**config 802.11 {a | b} tsm {enable | disable}**

構文の説明	<b>a</b>	802.11a ネットワークを指定します。
	<b>b</b>	802.11b/g ネットワークを指定します。
	<b>enable</b>	ビデオ TSM 設定を有効にします。
	<b>disable</b>	ビデオ TSM 設定をディセーブルにします。

コマンド デフォルト 802.11a ネットワークまたは 802.11b/g ネットワークの TSM は、デフォルトでは無効になっています。

### コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

7.6 このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

次に、802.11b/g ネットワークのビデオ TSM オプションを有効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11b tsm enable
```

次に、802.11b/g ネットワークのビデオ TSM オプションを無効にする例を示します。

```
(Cisco Controller) > config 802.11b tsm disable
```

### 関連コマンド

**show ap stats**  
**show client tsm**



## config 802.11b preamble

サブクローズ 18.2.2.2 で定義されている 802.11b プリアンブルを **long** (遅いが信頼性が高い) または **short** (速いが信頼性が低い) に変更するには、**config 802.11b preamble** コマンドを使用します。

**config 802.11b preamble {long | short}**

構文の説明	<b>long</b>	long 802.11b プリアンブルを指定します。
	<b>short</b>	short 802.11b プリアンブルを指定します。
コマンドデフォルト	802.11b プリアンブルのデフォルト値は short です。	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	7.6	このコマンドは、リリース 7.6 以前のリリースで導入されました。

### 使用上のガイドライン



- (注) このコマンドを実装するには、保存して Cisco ワイヤレス LAN コントローラをリブート (システムをリセット) する必要があります。

SpectraLink 社の NetLink 電話など、一部のクライアント向けに Cisco ワイヤレス LAN コントローラを最適化するには、このパラメータを **long** に設定する必要があります。

このコマンドは、CLI インターフェイスがアクティブなときはいつでも使用できます。

次に、802.11b プリアンブルを short に変更する例を示します。

```
(Cisco Controller) >config 802.11b preamble short
(Cisco Controller) >(reset system with save)
```

